

97-392

7



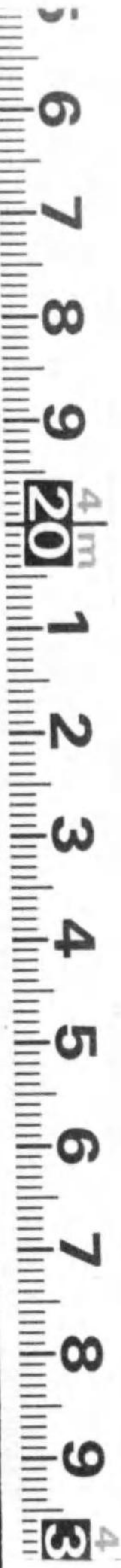
1200600303019

392

昭和四年

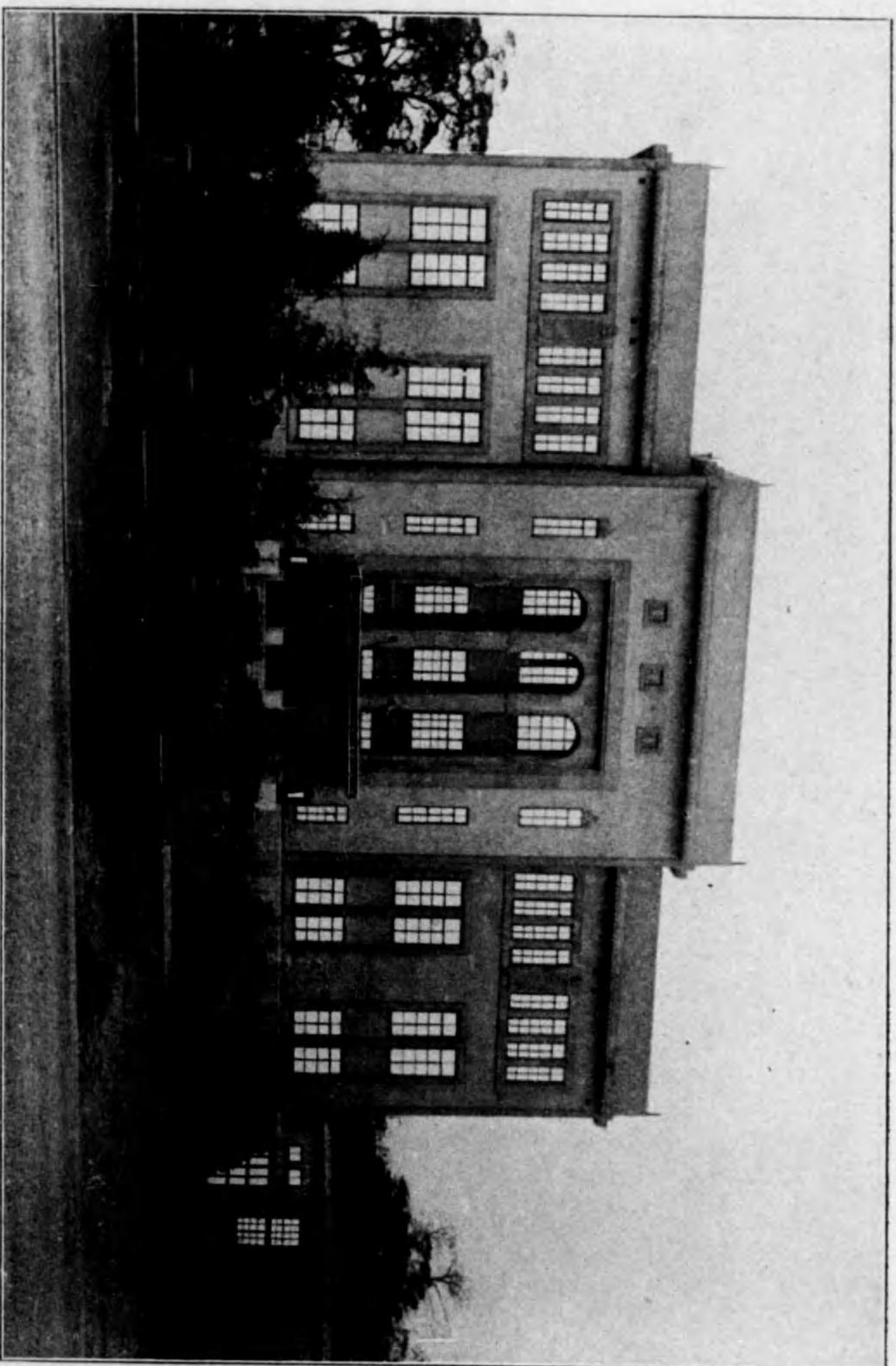
帝國學士院一覽

(昭和四年七月始調)



始





帝 國 學 士 院 會 館

帝國學士院一覽



目次

第一	本院會館寫真	一葉
第二	沿革略	一頁
第三	帝國學士院規程	二一頁
第四	帝國學士院會則	二七頁
第五	各部分科並ニ定員	三二頁
第六	帝國學士院授賞規則	三三頁
第七	恩賜賞ニ關スル決議	三六頁
第八	帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律	三七頁
第九	貴族院帝國學士院會員議員互選規則	三七頁
	貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票	

目次

一

第十	用紙投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議	四六頁
第十一	條件附寄附金ニ關スル決議	四六頁
第十二	藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議	四八頁
第十三	末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	四八頁
第十四	松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議	四九頁
第十五	大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念 學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議	五〇頁
第十六	小池厚之助寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議	五一頁
第十七	學術研究費補助ニ關スル決議	五二頁
第十八	高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術獎勵資 金受領候補者選定ニ關スル決議	五三頁
第十九	學術研究費補助推薦ニ關スル決議	五五頁

第二十	出版ニ關スル決議	五六頁
第二十一	帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議	五七頁
第二十二	學術研究獎勵金運用委員會規則	五八頁
第二十三	學術研究獎勵金	六〇頁
第二十四	出版物	七一頁
第二十五	學術報告	七三頁
第二十六	授賞事項及受賞者	九〇頁
第二十七	補助研究事項	一〇一頁
第二十八	有栖川宮記念獎學資金受領候補者トシテ高松宮 家へ補助推薦ノ研究事項	一一一頁
第二十九	東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ研究事項	一一二頁
第三十	藤田男爵獎學費受費者	一一三頁
第三十一	子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品受品者	一一四頁
第三十二	役員	一一四頁

第三十三	會員及客員	一一五頁
第三十四	委員及事業擔當會員、囑託員	一二二頁
第三十五	事務職員	一二六頁
第三十六	帝國學士院前役員	一二七頁
第三十七	帝國學士院前會員及客員	一二八頁
第三十八	元東京學士會院役員	一三三頁
第三十九	元東京學士會院會員及客員	一三五頁
第四十	昭和四年四月二十六日第十九回授賞式ニ於ケル 櫻井院長ノ演說	一四〇頁
第四十一	本院會館工事概要 本院敷地及建物略圖	一五五頁 一葉

帝國學士院一覽

(昭和四年七月始)

第一 沿革略



帝國學士院ハ元東京學士會院ト稱ス其ノ起源沿革左ノ如シ
 明治十一年 ○十二月 文部卿西郷從道當時文部省雇顧問タリシ米
 人マレー氏ノ建議ニ由リ學士會院ノ必要ヲ認メ乃チ東京學士會院
 規則大意及選舉案ヲ西周、加藤弘之、神田孝平、津田真道、中村正直、福澤
 諭吉、箕作秋坪ノ七名ニ諮詢シ其ノ協賛ヲ得テ之カ創設ヲ決定ス
 同 十二年 ○一月 文部大輔田中不二麿(文部卿)右西周以下ノ七名
 ヲ東京學士會院ノ會員ニ選舉シ其ノ報帖ヲ交付シ文部省内修文館
 ヲ假用シテ東京學士會院ヲ置ク ○四月 東京學士會院規則ヲ定ム
 其ノ要項ハ教育ノ事ヲ討議シ學術技藝ヲ評論スルヲ目的トシ會員
 ハ四十名ヲ限リ會院ニ於テ選舉シ文部卿ノ認可ヲ經ルノ制ナリ ○
 五月 東京學士會院雜誌ヲ發行ス

明治十三年 ○九月 會院ヲ湯島昌平館ニ移ス
 同 十四年 ○四月 會院ヲ修文館ニ移ス
 同 十五年 ○一月 會院ヲ再ヒ昌平館ニ移ス○十二月 昌平館類
 燒ニ罹リ本院會場器具及藏書百七十部ヲ燒失ス尋テ本院ヲ修文館
 ニ假設ス
 同 十七年 ○十月 會院ヲ東京教育博物館(上野)ニ移ス
 同 十八年 ○二月 文部卿大木喬任東京學士會院組織大綱ヲ示ス
 其ノ要旨ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ圖ルニ在リ會員
 ハ帝室ノ御選ニ係ル者十五名會員ノ推選ニ係ル者二十五名ヨリ成
 ル○四月 更ニ右大綱ニ基キ新ニ會則ヲ定メ同年九月ヨリ實施ス
 同 十九年 ○一月 會員ノ講演ヲ公開ス○十一月 會院ヲ東京教
 育博物館構内新築館(上野)ニ移ス
 同 二十三年 ○十月 勅令第二百六十四號東京學士會院規程發布
 ○十一月 會則ヲ定ム

同 二十八年 ○三月 勅令第十七號東京學士會院規程補則發布
 同 三十三年 ○五月 皇太子殿下御婚儀奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス
 同 三十四年 ○六月 定期刊行ノ東京學士會院雜誌ヲ廢シ同年七
 月ヨリ東洋學藝社ト契約シ毎月講演ノ論說及記事等ハ同社ノ雜誌
 ニ掲載スルコト、ス(後五年ニシテ之ヲ解ク)
 同 三十九年 ○六月 勅令第四百四十九號帝國學士院規程發布○七
 月 會則ヲ改正ス○役員ノ選舉ヲ行ヒ院長加藤弘之、幹事重野安釋、
 第一部々長穗積陳重、第二部々長男爵菊池大麓當選就任ス○和算史
 調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手ス○十二月 會則ヲ改正ス○萬國
 學士院聯合會ニ加入ス
 同 四十年 ○四月 會員重野安釋、同男爵菊池大麓、國キエナニ於
 ケル第三回萬國學士院聯合會へ委員トシテ參列被仰付○七月 出
 版ニ關スル決議及學術研究費補助ニ關スル決議ヲ議定ス○十一月
 會則ヲ追加ス○出版ニ關スル決議ヲ修正ス○十二月 帝國學士院

紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ議定ス

明治四十一年 ○六月 伊能忠敬測地事蹟ヲ調査スルコトヲ議決シ

同年八月着手

同 四十二年 ○一月 燃黎室記述調査ノ件ヲ議決シ同月ヨリ着手

ス○羅馬法ニ關スル書籍ノ翻譯出版ノ件ヲ議決ス○三月 前年着手シタル假名遣及假名字體沿革史料ノ出版成ル○四月 哲學字彙刊行ノ件ヲ議決ス○六月 會員中島力造本院代表者トシテライプチヒ大學創立五百年祝賀式ニ參列ノ件ヲ議決ス○役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓幹事宮崎道三郎第一部々長穂積陳重第二部々長古市公威當選七月就任ス

同 四十三年 ○四月 會員櫻井錠二ヲ伊國ローマニ於ケル第四回

萬國學士院聯合大會へ本院代表トシテ參列ノ件ヲ議決ス○五月 會員三浦謹之助へ本院會員ノ代表者トシテベルリン大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス○七月 左ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ獎勵スル旨趣ヲ以テ授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被
開食特ニ賞典資トシテ本年ヨリ十箇年間年々金貳千圓下賜候事

明治四十三年七月五日

宮 内 省

○十月 本院授賞規則ヲ定ム

同 四十四年 ○二月 恩賜賞ニ關スル決議ヲ議定ス(四月遣加議決) ○三月

法律第三十八號帝國學士院學術獎勵金特別會計法發布○勅令第六十九號帝國學士院學術獎勵金特別會計規則發布○五月 恩賜賞々牌及同賞記ニ菊花御紋章附着ノ儀ヲ允許セラル○六月 會員大森房吉へ本院代表トシテプレスラウ大學創立百年祝賀式ニ參列ヲ委囑ス○七月 初メテ授賞式ヲ行フ(受賞者等別項ニ記ス以下同シ) ○十月 男爵三井八郎右衛門及男爵岩崎久彌寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議

決ス(寄附金第二號) ○十一月 出版ニ關スル決議ヲ修正ス ○寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ議定ス ○十二月 紀事出版ニ關スル第二部決議ヲ廢シ更ニ紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議ヲ議定ス

明治四十五年 ○五月 第二回授賞式舉行 ○寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス ○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓幹事宮崎道三郎第一部々長穗積陳重第二部々長古市公威當選七月就任ス ○十月 工學博士藥學博士高峯讓吉寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第三號) ○十二月 男爵住友吉左衛門寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第四號)

大正二年 ○四月 會員坪井正五郎ヲ露國聖彼堡得ニ於ケル第五回萬國學士院聯合大會へ本院代表トシテ參列ノ件ヲ議決ス ○五月 本年度學術研究費補助ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ議決ヲ省略シ補助事項ハ別項ニ掲ク) ○七月 第三回授賞式舉行 ○幹事宮崎道三郎辭任ニ付補缺選舉ヲ行ヒ櫻井錠二當選同月就任ス ○十二月 男爵古河虎之助寄附申出ノ學術研究

獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第五號)

同 三年 ○三月 萬國學士院聯合會評議員改選ニ付院長男爵菊池大麓第一部々長穗積陳重ヲ評議員ニ選定ス ○七月 第四回授賞式舉行 ○十一月 著者名ノ書方ニ關スル件ヲ議決ス ○十二月 勅令二百五十八號帝國學士院會員ハ勅任官ヲ以テ待遇セララルヘキ旨公布

同 四年 ○六月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長菊池大麓幹事櫻井錠二第一部々長穗積陳重第二部々長古市公威當選七月就任ス ○六月 法律第十二號帝國學士院學術獎勵金特別會計法ヲ廢止シ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ院長ニ經理ヲ委任スルコトヲ得ヘキ旨公布(施行期大正五年四月一日) ○七月 第五回授賞式舉行 ○十月 男爵藤田平太郎寄附申出ニ係ル學術研究獎勵金並ニ羅馬法學書出版費受領ノ件ヲ議決ス(第六號) ○十一月 御即位奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス ○院長菊池大麓本院會員總代幹事櫻井錠二御即位ノ大禮式ニ參列ス ○十二月

東照宮三百年祭記念會ヨリ學術研究資金補助ヲ要スヘキモノ、推薦方ノ依頼アリ之カ受諾ヲ議決ス(以下毎年推薦ノ事ハ別項ニ譲ル)

大正五年 ○四月 會則及授賞規則ヲ修正ス○六月 三井合名會社

々長男爵三井八郎右衛門寄附申出ノ出版費受領ノ件ヲ議決ス(第七號)

○山下龜三郎寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第八號)

○七月 第六回授賞式舉行○十月 立太子式奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス

同 六年 ○二月 故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一寄附申出

ノ桂學術獎勵基金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)

○藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議ヲ議定ス○七月 第七回授賞式舉行○十月 院長理學

博士男爵菊池大麓薨去ニ付補缺選舉ヲ行ヒ法學博士男爵穗積陳重

當選同月就任ス○故菊池大麓ノ擔當セシ和算史ノ調査ヲ藤澤利喜

太郎へ委囑スルコトヲ議決ス○十一月 第一部々長穗積陳重院長

ニ就任ニ付キ同部長ノ補缺選舉ヲ行ヒ井上哲次郎當選同月就任ス

○大正六年度羅馬法學獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

(以下毎年同事項省略ス)

同 七年 ○四月 子爵夫人末松生子寄附申出ノ羅馬法獎勵資金受

領ノ件ヲ議決ス(第十號)

○ロンドンニ於ケル聯合諸國「サイエンティフ」

クアカデミース代表者會議ニ本院代表トシテ會員櫻井錠二並ニ田

中館愛橋參列ノ件ヲ議決ス○五月 第八回授賞式舉行○六月 役

員ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重幹事櫻井錠二第一部々長井上哲次郎

第二部々長古市公威當選七月就任ス○七月 子爵夫人末松生子寄

附羅馬法獎學資金ノ使途ニ關スル決議ヲ議定ス○十月 大正七年

度採鑛冶金學及關係學科獎學費(藤田男爵獎學費)給與ノ件ヲ議決ス

○大正七年度子爵夫人末松生子羅馬法獎學品贈與ノ件ヲ議決ス

(以上二項以下毎年ノ議決ヲ省略ス)

同 八年 ○三月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議及學術研究費

補助ニ關スル決議ヲ修正ス○五月 皇太子殿下御成年式奉賀ノ爲

回總會ニ本院代表トシテ會員田中館愛橘參列ノ件ヲ議決ス

○第九回授賞式舉行○六月 學術研究會議設立ニ關スル建議書ヲ
内閣總理大臣並ニ文部大臣ニ提出ス○パリニ於ケル萬國學士院聯
合會ノ組織變更ニ關スル會議ニ本院代表トシテ會員高楠順次郎並
ニ小野塚喜平次參列ノ件ヲ議決ス

大正九年 ○一月 次ノ御沙汰書ヲ拜受ス

帝國學士院

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典資トシテ十
ケ年間々々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降
引續十ケ年間々々下賜候事

大正九年一月七日

宮 内 省

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

大正九年一月七日

宮 内 省

○一月 組織變更後ノ第一回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表ト
シテ會員服部宇之吉並ニ織田萬參列ノ件ヲ議定ス○二月 帝室制
度ノ歴史的研究ヲ本院ノ事業トシテ遂行スル件ヲ議決シ會員岡野
敬次郎(主任)三上參次、美濃部達吉ヲ擔當委員ニ選定シ後更ニ服部宇
之吉ヲ追加選定ス○五月 第十回授賞式舉行○八月 曩ニ建議セ
ル學術研究會議設立ノ件ハ政府ノ容ルル所トナリ勅令第二百九十
七號ヲ以テ同會議ノ官制制定公布セララル○十二月 學術研究會議
第一回總會ヲ文部省内ニ招集シ會長及副會長ノ選舉ヲ行ヒ會長古
市公威副會長櫻井錠二當選シ院長穗積陳重ハ會長古市公威ニ對シ
學術研究會議ニ關スル事務ノ引繼ヲ了ス

同 十年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第二回萬國學士院聯合會會議ニ本院代表トシテ會員岡松參太郎
並ニ三上參次參列ノ件ヲ議決ス○五月 第十一回授賞式舉行○六
月 役員ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重、幹事櫻井錠二、第一部々長井上

哲次郎、第二部々長藤澤利喜太郎當選七月就任ス○九月 皇太子殿下海外ヨリ御歸還奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○十月 三井家總代男爵三井八郎右衛門及三菱合資會社社長男爵岩崎小彌太寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第一號及第二號)

大正十一年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○第三回萬國學士院聯合會會議へ本院代表トシテ會員井上哲次郎並ニ美濃部達吉參列ノ件ヲ議決ス○二月 白耳義學士院創立百五十年祝賀式へ本院代表トシテ會員井上哲次郎、中村精男、平山信並ニ美濃部達吉參列ノ件ヲ議決ス○四月 松方公爵米壽祝賀會發起人總代法學博士男爵阪谷芳郎並ニ平山成信寄附申出ノ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○松方公爵米壽祝賀會記念獎學資金ノ使用方法ニ關スル決議條項ヲ議決ス○五月 第十二回授賞式舉行○七月 財團法人原田積善會理事原田二郎寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○十月 男爵住友吉左衛

門寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第四號)○十一月 來朝中ノ獨逸理學者アインシタイン博士歡迎會ヲ植物園ニ於テ舉行シ歡迎ノ辭ヲ呈ス○十二月 第四回萬國學士院聯合會々議並ニ第五回萬國史學會々議へ本院代表トシテ會員上田萬年並ニ立作太郎參列ノ件ヲ議決ス

同 十二年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○高峯保全株式會社取締役鹽原又策寄附申出ノ學術研究ノ賞又ハ資ノ基金(第十號)及三共株式會社取締役鹽原又策寄附申出ノ上記資金補充金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○二月 男爵古河虎之助寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第五號)○三月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議、松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議及ヒ學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○四月 松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信寄附申出ノ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金利子ニ加フヘキ獎學金受領ノ件ヲ議決ス(第十二號)○山下龜三郎寄

附申出ノ國際關係ノ學事費受領ノ件ヲ議決ス^(第九號)○五月 第十三回授賞式舉行○松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎寄附申出ノ同祝賀記念獎學資金受領ノ件ヲ議決ス^(第十二號)○九月 大震火災ノ爲本院會議室ノ一部ヲ日本赤十字社福島支部救護班執務ノ爲提供シ尙罹災者收容ニ充ツ○十一月 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附申出ノ東宮御成婚記念學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス^(第十號)○十二月 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議ヲ修正ス○大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術研究獎勵資金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス○第五回萬國學士院聯合會々議へ本院代表トシテ會員松本亦太郎並ニ織田萬參列ノ件ヲ議決ス

大正十三年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第五回萬國學士院聯合會々議本院代表織田萬ノ後任トシテ在白大使安達峰一郎ニ參列委囑ノ件ヲ議決ス○一月 東宮殿下御慶事奉祝ノ爲賀表ヲ捧呈ス○五月 第十四回授賞式舉行○六月 役員

ノ改選ヲ行ヒ院長穗積陳重幹事櫻井錠二第一部々長井上哲次部第二部長佐藤三吉當選七月就任ス○十二月 米國人メンデンホール寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス^(第七號)

同十四年 ○一月 第六回萬國學士院聯合會々議へ本院代表委員トシテ會員福田德三並ニ織田萬參列ノ件及在白大使安達峰一郎ニ參列委囑ノ件ヲ議決ス○學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル○會員推選ニ關スル臨時手續ノ件ヲ議決ス○歐文記事出版ノ新計畫ニ關スル件ヲ議決ス○五月 各部ニ分科設置並ニ其ノ定員ノ件ヲ議決ス○會員推選ニ關スル臨時手續法改正ノ件ヲ議決ス○小池厚之助寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス^(第八號)○勅令第二百號帝國學士院規程改正ノ件公布○會則ヲ改正ス○第十五回授賞式舉行○勅令第二百三十三號貴族院帝國學士院會員議員互選規則公布○七月 紀事及別冊出版ニ關スル決議ヲ修正ス○八月 閣令第五號ヲ以テ貴族院帝國學士院會員議員ノ互選投票用紙、投票用封筒及

投票函ノ様式ニ關スル件公布○勅令第二百七十三號帝國學士院規程改正ノ件公布○九月 露國學士院創立二百年記念式へ本院代表トシテ會員福田徳三派遣ノ件及祝文贈呈ノ件ヲ議決ス○小池厚之助寄附學術獎勵金ノ使途ニ關スル條項ヲ議決ス○貴族院帝國學士院會員議員ノ第一回互選ヲ行ヒ第一部會員井上哲次郎、小野塚喜平次、第二部會員藤澤利喜太郎、田中館愛橋ノ四名當選、十月十日各右議員ニ勅任セラル○十月 極東熱帶醫學會第六回總會海外參列者歡迎ノ爲午餐會ヲ開ク○院長穂積陳重辭任ニ付キ同會員多年在職中ノ功勞ニ對シテ感謝狀ヲ呈スヘキコトヲ議決ス○十一月 院長辭任ニ因ル補缺選舉ヲ行ヒ會員岡野敬次郎當選同月就任ス○十二月 第七回萬國學士院聯合會々議へ本院代表トシテ會員瀧精一派遣ノ件ヲ議決ス○學術研究費補助ニ關スル決議松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議及大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議ヲ修正ス○サー・チャール

大正十五年
昭和元年

ス・エリオットヲ客員ニ推舉ス

○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル
○ブルユセルニ於ケル第七回萬國學士聯合會々議へ本院代表委員トシテ會員在白日本大使安達峰一郎ヲ參列セシムヘキ件ヲ更ニ議決ス○二月 院長岡野敬次郎薨去ニ付キ補缺選舉ヲ行ヒ會員幹事櫻井錠二當選シ同月就任ス○岡野節寄附申出ノ學術獎勵金及追加寄附金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○三月 幹事ノ補缺選舉ヲ行ヒ姉崎正治當選同月就任ス○來朝中ノ佛國醫科學士院幹事シャルル・アシヤル博士並ニソルボヌ大學教授フシエ博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク
○四月 小池厚之助追加寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス
○五月 第十六回授賞式舉行○九月 新築會館落成シ之ニ移轉ス
○十月 高松宮家ヨリ有栖川宮記念獎學資金受領候補者選定方ノ御依頼アリ之カ受諾ヲ議決ス○小津清左衛門寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第十號)○十一月 第三回汎太平洋學術會議海外

參會者歡迎ノ爲午餐會ヲ開キ一同新會館ヲ參觀ス○第一部々長井上哲次郎會員ヲ辭任ス○十二月 第一部々長ノ補缺選舉ヲ行ヒ會員富井政章當選同月就任ス○第八回萬國學士院聯合會々議へ本院代表委員トシテ會員土方寧派遣ノ件及在白會員安達峰一郎參列ノ件ヲ議決ス○貴族院帝國學士院會員議員ノ補缺選舉ヲ行ヒ會員上田萬年當選同月二十一日同議員ニ勅任セラル

昭和二年 ○二月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○三月 ルヴン大學創立五百年記念式へ本院代表トシテ會員土方寧參列ノ件及祝文贈呈ノ件ヲ議決ス○ロード・リスター誕生百年祭ニ祝電ヲ送ルヘキコトヲ議決ス○五月 第十七回授賞式舉行○六月 有栖川宮記念獎學資金受領候補者推薦ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ同事項ハ省之)○第十回萬國動物學會ニ本院代表トシテ五島清太郎ニ出席ヲ委囑ス○役員ノ改選ヲ行ヒ院長櫻井錠二、幹事姊崎正治、第一部々長富井政章、第二部々長佐藤三吉當選七月就任ス○勅令第百八十二號ヲ以

テ規程中改正ノ件公布○學術研究費補助ニ關スル決議ヲ修正ス○八月 西川虎吉ニ本院代表トシテマルスランベルトロー百年祭ニ參列及祝文贈呈方ヲ委囑ス○十月 中澤つる寄附申出ノ學術研究獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第廿一號)○十二月 有栖川宮記念獎學資金受領候補者推薦ノ件ヲ議決ス(以下毎年ノ同事項ハ省之)○第九回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表トシテ會員安達峰一郎及吉田靜致參列ノ件ヲ議決ス

同 三年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セラル

○學術研究獎勵金運用委員會設置ノ件及同委員會規則ヲ議定ス○四月 第十八回授賞式舉行○五月 コレジド・フランス教授シルバ・ン・レビ博士ヲ客員ニ推舉ス○七月 古籀篇刊行會理事長子爵渡邊千冬寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第二號)○十一月 御即位ノ大禮奉賀ノ爲賀表ヲ捧呈ス○院長櫻井錠二、會員總代幹事姊崎正治御即位ノ大禮式ニ參列ス○十二月 獨逸物理學者ゾンマーフェルト博士歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク

昭和四年 ○一月 學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜セララル

○第十回萬國學士院聯合會々議ニ本院代表トシテ會員安達峰一郎及山田三良參列ノ件ヲ議決ス○二月 ニューヨーク市學士院創立二十五年祝賀式ニ祝電贈呈ノ件ヲ議決ス○四月 エヂンバラ大學總長サー・アルフレッド・イウイングヲ客員ニ推舉ス○第十九回授賞式舉行○五月 元古籙篇刊行會理事服部宇之吉寄附申出ノ學術獎勵金受領ノ件ヲ議決ス(第二三號)○六月 來訪中ノ米國カーネギーインステチュウシヨシヨシ世界磁力觀測隊指揮者オウルト以下六名ノ學者歡迎ノ爲晚餐會ヲ開ク

第二 帝國學士院規程

勅令第四百四十九號

(明治三十九年六月十二日)

(大正十四年五月改正 同九月改正 昭和二年六月改正)

帝國學士院規程

第一條 帝國學士院ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ學術ノ發達ヲ圖リ教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス

第二條 帝國學士院會員ハ帝國學士院ニ於テ碩學中ヨリ推選シ勅旨ヲ以テ之ヲ命ス

第三條 外國人ニシテ帝國ニ於ケル學術ノ發達ニ關シ特別ノ功勞アル者ハ帝國學士院ニ於テ之ヲ客員ト爲スコトヲ得

第四條 帝國學士院ハ左ノ二部ニ分テ會員ハ各專攻ノ學科ニ依リテ之ニ分屬ス

第一部 文學及社會的諸學科

第二部 理學及其ノ應用諸學科

第五條 帝國學士院會員ノ定員ハ百人トス

第六條 帝國學士院ハ會議ヲ開キ學術及教化ニ關スル事項ヲ審議ス會議ハ總會及部會トス

第七條 帝國學士院會員ハ專攻ノ學科ニ付論文ヲ提出シ又ハ報告ヲ爲スモノトス

第八條 帝國學士院ハ學術ニ關スル論文、考案資料等ヲ募集スルコトヲ得

第九條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ外國ニ於ケル學術上ノ團體ト共同シテ研究ヲ爲シ又ハ其ノ會員トナルコトヲ得

第十條 文部大臣ハ學術及教化ニ關スル事項ニ付帝國學士院ニ諮詢スルコトヲ得

第十一條 帝國學士院ハ少クトモ毎年一回院務ニ關スル報告書ヲ文部大臣ニ提出スヘシ

第十二條 帝國學士院ニ院長一人、幹事一人及部長二人ヲ置ク

院長及幹事ハ總會ニ於テ部長ハ部會ニ於テ會員中ヨリ之ヲ互選ス院長、幹事及部長ノ任期ハ三年トス

第十三條 院長ハ院務ヲ總理シ總會ニ於テ其ノ議長ト爲ル院長事故アルトキハ幹事其ノ職務ヲ代理シ院長及幹事共ニ事故アルトキハ院長ノ指名シタル會員其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ院長ノ指揮ヲ受ケ院務ヲ掌理ス

第十四條 部長ハ院長ノ指揮ヲ受ケ部務ヲ掌理シ部會ニ於テ其ノ議長ト爲ル第十四條 院長、幹事及部長ニハ手當ヲ支給スルコトヲ得

第十五條 滿六十歳以上ノ會員ニハ特ニ年金ヲ給スルコトヲ得

第十六條 帝國學士院ニ書記四人ヲ置キ文部省所屬ノ判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ院長、幹事、部長ノ命ヲ受ケ庶務ニ従事ス

書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第十七條 學術上ノ調査ノ爲會員中ニ於テ擔當者ヲ定メタルトキハ

手當ヲ給スルコトヲ得

第十八條 帝國學士院ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ會則ヲ定ムルコトヲ得

附 則

第十九條 東京學士會院規程及東京學士會院規程補則ハ之ヲ廢ス

第二十條 本令施行ノ際東京學士會院會員及客員タル者ハ本令ノ規定ニ依リ帝國學士院會員及客員タル者トス

第二十一條 東京學士會院規程第五條ニ依リテ年金ヲ受クル者ハ本令施行ノ後仍同額ノ年金ヲ受ク

第二十二條 本令ノ規定ニ依リ帝國學士院長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院會長ニ於テ幹事及部長ノ就任スルニ至ル迄ハ元東京學士會院幹事ニ於テ其ノ職務ヲ行フヘシ

(參照)

勅令第二百六十四號 (明治二十三年十月二十五日官報)

東京學士會院規程

第一條 東京學士會院ハ學藝ノ品位ヲ高クシ以テ教化ノ裨補ヲ謀ランカ爲ニ設クル所ニシテ文部大臣ノ管轄ニ屬ス

第二條 東京學士會院ハ耆德碩學ノ中ヨリ選出セラレタル會員ヲ以テ組織ス其ノ選出ノ方法及人員左ノ如シ

一 帝室ノ特選ニ依ル會員十五名

一 會員ノ推選ニ依ル會員二十五名

會員ノ推選ニ依ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

會員ハ終身トス

第三條 東京學士會院會員ハ各自專攻ノ學科ニ就キ論說ヲ述ヘ又學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ報告スルモノトス

第四條 東京學士會院ハ學藝及教化ニ關スル事項ニ就キ文部大臣ヨリ諮問アルトキハ審議復申スルモノトス

又會員各自意見アルトキハ會院ニ於テ審議シ文部大臣ニ開陳スルコトヲ得

第五條 東京學士會院會員滿六十歳以上ノ者十名以内ヲ限リ特ニ各年金三百圓賜フコトアルヘシ

第六條 東京學士會院ニ會長一人幹事二人ヲ置ク

會長幹事ハ會員ノ互選ヲ以テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム其任期ハ各一年トス但再選セラレルコトヲ得

第七條 會長ハ文部大臣ノ監督ヲ受ケ院務ヲ統理シ議事アルトキハ議長ノ任ニ當ルモノトス會長事故アルト

キハ幹事ノ内一人ヲ指定シテ其任務ヲ代理セシム

幹事ハ會長ヲ補佐シテ院務ヲ掌理ス

第八條 削除(二十六年勅令第五十九條ヲ以テ削除)

第九條 東京學士會院ニ書記二人ヲ置キ文部屬ヲ以テ之ニ兼補ス書記ハ會長幹事ニ屬シテ庶務ニ従事ス

第十條 東京學士會院ハ文部大臣ノ許可ヲ得テ會則ヲ設クルコトヲ得

勅令第十七號 (明治二十八年三月八日官報)

東京學士會院規程補則

(參照)東京學士會院規程 帝國學士院規程

ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テハ候補者ノ改選ヲ行フ
第三條 候補者ノ豫選及會員ノ推選ハ少クトモ三週間以前院長ヨリ
之ヲ會員ニ通知ス

第四條 客員ヲ推舉セントスル者ハ當該部會員五人以上ノ賛成ヲ得
テ部會ニ發議スルコトヲ得

客員ノ選定ニ關シテハ第二條第三項及第三條ノ規定ヲ準用ス

第五條 院長幹事及部長ノ選舉ハ最多數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當
選者トス

院長幹事及部長ハ六月ニ之ヲ選舉シ七月ニ至テ就任ス但シ六月ニ
選舉ヲ行フコト能ハサルトキハ遞次之ヲ繰延フルコトヲ得此場合
ニ於テハ後任者ノ就任スルニ至ル迄仍前任者ニ於テ其ノ職務ヲ取
扱フ後任者ノ任期ハ其ノ就任ノ時期ニ拘ラス七月ヨリ之ヲ起算ス
第六條 投票ハ總テ無記名トス

病氣其ノ他ノ事故ニ依リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投

票スルコトヲ得

第七條 第二條第一項及第五條第一項ノ場合ニ於テ投票同數ナルト
キハ年長者ヲ以テ當選者トス

第八條 總會ハ院長部會ハ部長之ヲ召集ス

通常總會ハ毎月一回之ヲ開ク但シ八九兩月ハ開會セス

院長ノ見込ニ依リ又ハ會員五人以上ノ請求アルトキハ臨時總會ヲ
開クコトヲ得

第九條 總會及部會ハ在東京會員ノ三分之一以上ニ相當スル出席員ア
ルニアラサレハ議決ヲ爲スコトヲ得ス

議決ハ出席員ノ過半數ニ依ル

第十條 總會及部會ノ議長ハ議決ノ數ニ加ハラズ但シ可否同數ナル
トキハ議長之ヲ決ス

第十一條 帝國學士院規程第七條ノ論文ノ提出及報告ハ總會又ハ部
會ニ於テ之ヲ爲スヘシ

帝國學士院會員ニ非サル者ノ論文又ハ報告ハ會員之ヲ紹介シテ總會又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

論文及報告ハ之ヲ印刷シテ學者、學會、學校等ニ配付スルコトアルヘシ

論文及報告ノ會議ハ傍聽ヲ許スコトアルヘシ

第十二條 總會又ハ部會ノ議決ニ依リ講演ヲ公開スルコトアルヘシ

第十三條 部ハ總會ノ認可ヲ經テ部則ヲ定ムルコトヲ得

第十四條 部會ノ開會及議決ハ部長ヨリ之ヲ院長ニ報告スヘシ

第十五條 院長ハ毎年一回總會ニ於テ前一年間ノ院務ノ要項ヲ會員ニ報告スヘシ

部長ハ毎年一回前一年間ノ部務ノ要項ヲ院長ニ報告スヘシ

第十六條 部長事故アルトキハ會員ノ一人ニ其ノ職務ヲ委託スルコトヲ得

トヲ得

附 則

第十七條 各部ニ於ケル會員ノ數四十五人ニ充ツルマテハ第二條及第三條ノ規定ニ依ラス總會ニ於テ會員ニ推選スヘキ者ヲ選定ス

會則第九條第一項ニ關スル決議 (大正元年十月十二日總會議決)

帝國學士院會則第九條第一項ハ總會又ハ部會ヲ開キ諸般ノ報告ヲ受ケ及學術上ノ論文ノ提出アルヲ妨ケス

會則第十一條第二項ニ關スル決議 (大正五年三月十二日總會議決)

會則第十一條第二項ノ場合ニ於テハ本人ヲシテ論文又ハ報告ノ説明ヲ爲サシムルコトヲ得

(參照)

東京學士會院會則 (明治二十三年十一月九日議決同月二十六日文部大臣認可)

第一條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ投票ヲ以テス投票同數ナレハ年長者ヲ取ル

第二條 會長幹事ハ毎年十二月ニ於テ改選シ翌年一月ヨリ就職スルモノトス

第三條 會長幹事ハ發案討論ヲ爲スコト總會員ニ同シ

會長幹事議長ノ任ニ當ルトキハ可否ノ數ニ加ハラズ但可否同數ノ場合ニ於テハ議長之ヲ決ス

第四條 會長幹事ノ選舉並ニ會員ノ推選ハ在京會員ノ投票ヲ以テス但缺席者モ之ヲ加ヘルモノトス

第五條 會員ノ推選ハ先ツ在京會員ニテ投票シ其ノ投票數多數ノ三名ヲ取ツテ再ヒ投票シ最多數ヲ得タル者一人ヲ以テ當選者ト定ム但最多數ト雖投票數五點以下ナルトキハ之ヲ棄却シ更ニ改選ヲ爲ス

帝國學士院會則 帝國學士院會則ニ關スル決議 (參照)東京學士會院會則 三一

- 第六條 會員中右三名共ニ不適任ト認ムルカ若クハ其ノ學力人物等ヲ聞知セサルトキハ投票ヲ辭スル事ヲ得
- 第七條 投票ヲ辭シタル會員ノ數在京會員ノ三分ノ一以上ニ登ルトキハ選舉ヲ行ハス更ニ改選ヲ爲ス
- 第八條 當選者會員タルコトヲ辭スル者アルトキハ更ニ改選ヲ爲ス
- 第九條 議事ノ可否ヲ決スルハ多數ニ依ル但在京會員二分ノ一以上出席セサルトキハ可否ヲ決セス
- 第十條 會日ニハ講筵ヲ開キ公衆ノ參聽ヲ許スコトアルヘシ
- 第十一條 毎年一月ノ會日ニ於テ前會長前年ノ院務ノ要項ヲ報告ス
- 第十二條 會員ノ坐順變換ハ年二期(一月、七月)トシ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但新任者ハ該一期間末坐トス
- 第十三條 通常毎月(八、九兩月ヲ除ク)第二日曜日ヲ以テ會日ト定ム但事宜ニヨリ會日ヲ變更シ或ハ臨時會ヲ開クコトアルヘシ
- 第十四條 演述ノ筆記並ニ院務ノ要項等ハ時々之ヲ刊行シテ會員ニ頒チ併セテ世ニ公ニス

第四 各部分科並ニ定員

- 第一部
 - 第一分科——法律學、政治學、經濟學 定員 二十五人
 - 第二分科——哲學、史學、文學 定員 二十五人
- 第二部
 - 第一分科——星學、數學 定員 七人

- 第二分科——物理學、化學 定員 十一人
- 第三分科——地球物理學、地質學 定員 八人
- 第四分科——生物學、醫學 定員 十六人
- 第五分科——工學、農學 定員 八人

第五 帝國學士院授賞規則

明治四十三年十月十二日議決
 同月二十六年三月十二日議決
 大正五年三月十二日議決
 同四年四月十一日議決
 昭和二年六月十二日議決
 同和二年七月九日議決

- 第一條 帝國學士院ハ學術ノ研究ヲ獎勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ賞ヲ授ク
- 第二條 賞ハ特定ノ論文著書其ノ他特種ノ研究ニシテ其ノ成績卓絶ナルモノニ對シテ之ヲ授ク
- 第三條 賞ハ賞牌又ハ賞金トス但シ賞牌及賞金ハ併セテ之ヲ授クルコトヲ得
- 賞牌ノ制式ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 賞ハ帝國學士院會員ニ非サル者ニ之ヲ授ク

第五條 賞ヲ授クルハ推薦又ハ募集ニ依ル

第六條 帝國學士院會員授賞ノ推薦ヲ爲サムトスルトキハ毎年十月其ノ所屬ノ部會ニ其ノ提議ヲ爲スヘシ但シ十月部會ヲ開カサルトキハ遞次繰延フルコトヲ得

前項ノ提議ニハ當該部會員三人以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第七條 部會ニ於テ論文等ヲ審査ニ付スヘキモノト議決シタルトキハ審査委員ヲ定ムヘシ

部會ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ部ニ屬スル會員ニ審査委員ヲ囑託スルコトヲ得

第八條 審査委員ノ議決ハ多數決ニ依ル但シ審査委員ハ部會ニ於テ各其ノ意見ヲ述フルコトヲ妨ケス

第九條 審査委員ハ書面ヲ以テ審査ノ經過及結果ヲ部會ニ報告スヘシ

第十條 部會ニ於ケル擬賞ノ議決ニハ投票總數三分ノ二以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ規定ニ依リ擬賞ノ議決アリタルトキハ部長ハ審査報告書其ノ他擬賞ニ關スル一切ノ事項ヲ總會ニ提出シ其ノ議決ヲ經ヘシ

第十二條 擬賞ノ議決ヲ爲スニハ部長又ハ院長ニ於テ少クトモ三週間以前會議ノ目的ヲ會員ニ通知スヘシ

第十三條 擬賞ノ議決ニ付テハ投票ハ總テ無記名トス
病氣其ノ他ノ事故ニ因リ出席スルコト能ハサル者ハ封書ヲ以テ投票スルコトヲ得

第十四條 論文ヲ募集スル場合ニ於テハ其ノ都度部會ニ於テ募集ニ關スル事項ヲ定メ總會ノ議決ヲ經ヘシ

總會ノ議決アリタルトキハ帝國學士院募集ノ條件ヲ公示ス
第十五條 論文ノ募集了リタルトキハ部會ニ於テ審査委員ヲ定ムヘシ

シ

第十六條 第七條第二項及第八條乃至第十三條ノ規定ハ論文募集ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 賞ヲ受ケタル者ハ受賞ノ目的タル論文又ハ著書ニ其ノ旨ヲ表示スルコトヲ得

第十八條 賞ヲ授クヘキ者授賞推薦ノ提議アリタル後又ハ論文ノ募集ニ應シタル後死亡シタル場合ニ於テハ帝國學士院ハ授賞ノ旨ヲ公示シ且其ノ者ニ授クヘキ賞ノ處分ヲ定ム

第六 恩賜賞ニ關スル決議

(明治四十四年二月十二日總會決議
明治四十四年四月十二日總會決議)

- 一 皇室ノ御下賜金ヲ以テスル賞ハ之ヲ恩賜賞ト稱スルコト
- 二 恩賜賞ノ數ハ毎年第一部第二部各一個トシ場合ニ依リ二個ニ等分スルコトヲ得若シ其ノ年度内ニ授與シ了ラサルモノアルトキハ之ヲ遞次繰越シ授與スルモ差支ナキコト
- 三 恩賜賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授クルコト

第七 帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ

關スル法律 (大正四年五月法律第十三號)

帝國學士院ニ於テ學術研究獎勵ノ爲ニ要スル金額ハ之ヲ帝國學士院長ニ交付シ經理ヲ委任スルコトヲ得委任經理ニ係ル會計ノ検査ハ會計検査院法第十六條ノ規定ニ依ル

附 則

本法ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國學士院學術獎勵金特別會計法ニ依リ帝國學士院長ニ經理ヲ委任セラレタル金額ノ支出殘額ハ本法ニ依リ經理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

第八 貴族院帝國學士院會員議員互選規則

勅令第二百三十三號 (大正十四年六月十九日官報)

帝國學士院學術研究獎勵金委任經理ニ關スル法律 貴族院帝國學士院會員議員互選規則

貴族院帝國學士院會員議員互選規則

- 第一條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル選舉ハ帝國學士院規程ニ定メタル各部ニ於テ各二人ヲ互選スルモノトス
- 第二條 貴族院令第五條ノ二ノ規定ニ依ル互選資格ヲ有スル者ハ選舉ノ期日ノ三十日前ヨリ其ノ日迄引續キ帝國學士院會員タル者タルヘシ
- 第三條 選舉ニ關スル事項ハ內閣總理大臣之ヲ管理ス
- 第四條 選舉ハ九月二十日東京ニ於テ之ヲ行フ
- 第五條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ
- 第六條 帝國學士院長ハ選舉管理者ト爲リ選舉ニ關スル事務ヲ擔任ス
- 第七條 帝國學士院長ハ選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通

知書ヲ發スヘシ

- 第八條 互選人ハ選舉會場ニ於テ選舉管理者ノ交付シタル投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シテ投票スヘシ
- 投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス
- 第九條 互選人東京府ノ外ニ居住スルニ因リ又ハ公務若クハ疾病傷痍ニ因リ選舉ノ當日選舉ノ會場ニ到ルコト能ハサルトキハ郵便ニ依リ投票ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 前條ノ規定ニ依リ投票ヲ爲サムトスル者ハ選舉ノ期日ヨリ少クトモ十日前ニ選舉管理者ニ理由ヲ具ヘテ其ノ旨ノ届出ヲ爲スヘシ但シ正當ノ理由ニ因リ當該期間内ニ届出ヲ爲スコトヲ得サル場合ニ於テハ選舉ノ期日ノ前日迄ニ届出ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ選舉管理者ハ直ニ投票用紙及投票用封筒ヲ當該互選人ニ送付スヘシ

第十一條 前條ノ規定ニ依ル送付ヲ受ケタル互選人ハ投票用紙ニ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數以下ノ被選舉人ノ氏名ヲ自ラ記載シ之ヲ投票用封筒ニ入レ封緘シ更ニ之ヲ他ノ封筒ニ入レ封緘シ其ノ表面ニ署名捺印シ且投票在中ノ旨ヲ明記シ投票ノ時間ノ終了スル時迄ニ到達スル様書留郵便ヲ以テ選舉管理者ニ之ヲ送付スヘシ
投票用紙及投票用封筒ニハ選舉人ノ氏名ヲ明記スルコトヲ得ス
第十二條 選舉管理者ハ前三條ノ規定ニ依ル郵便投票ヲ受領シタルトキハ選舉會場ニ於テ投票ノ時間内ニ互選人ノ面前ニ於テ外部ノ封筒ヲ開披シテ投票用封筒ヲ投函スヘシ
第十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ投票ヲ行フノ必要アルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日、選舉會場及投票時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ

第十四條 投票終ルノ後選舉管理者ハ互選人ノ面前ニ於テ投票ヲ點檢スヘシ此ノ場合ニ於テ投票用封筒ニ入レタル投票アルトキハ其ノ封筒ヲ開披シタル上總テノ投票ヲ混同シタル後點檢スヘシ

第十五條 投票ノ拒否及效力ハ選舉管理者之ヲ決定ス

第十六條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 二 互選人ニ非サル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 一投票中其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ超過スル被選舉人ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記載シタルモノ但シ官位、職業、身分住居又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 五 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ
- 六 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 七 貴族院帝國學士院會員議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタル

モノ

前項第七號ノ規程ハ第二十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル選舉ノ場合ニ限リ之ヲ適用ス

第一項第二號第六號又ハ第七號ニ該當スル投票ハ連記投票ノ場合ニ於テハ其ノ該當ノ部分ノミヲ無効トス

第十七條 有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス但シ其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ヲ以テ總被選舉人ノ得票總數ヲ除シテ得タル數ノ四分ノ一以上ノ得票アルコトヲ要ス

當選人ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年齡多キ者ヲ取り年齡モ亦同シキトキハ選舉會場ニ於テ選舉管理者互選人ノ面前ニテ抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條 第十四條ノ規定ニ依ル點檢ノ結果ハ其ノ場ニ於テ之ヲ告知スヘシ當選人ノ其ノ場ニ在ラサルトキハ尙直ニ當選ノ旨ヲ本人ニ告知スヘシ

第十九條 貴族院令第九條ノ規定ニ依ル選舉ニ關ル爭訟ノ結果更ニ選舉ヲ行フコトナクシテ當選人ヲ定メ得ル場合ニ於テハ選舉管理者之ヲ定ムヘシ

當選人當選ヲ辭シタルトキ死亡者ナルトキ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ當選人闕クルニ至リタルトキハ選舉管理者ハ直ニ第十七條第一項但書ノ得票者ニシテ當選人ト爲ラサリシ者ノ中ニ就キ當選人ヲ定ムヘシ

前二項ノ場合ニ於テ選舉管理者ハ直ニ當選人ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ

第二十條 當選人當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ選舉管理者ニ届出ツヘシ

當選人當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモトノ看做ス

第二十一條 當選人當選ヲ承諾シタルトキハ帝國學士院長ハ當選人

ノ氏名ヲ内閣總理大臣ニ報告スヘシ

第二十二條 選舉管理者ハ選舉録ヲ作り選舉ニ關スル顛末ヲ記載シ署名シ且其ノ寫ヲ内閣總理大臣ニ送付スヘシ

當選人議員ニ勅任セラレタルトキハ内閣總理大臣ハ選舉録ノ寫ヲ貴族院議長ニ送付スヘシ

第二十三條 投票ハ有效無效ヲ區別シ郵便投票ニ用ヒタル封筒選舉録其ノ他ノ關係書類ト共ニ議員ノ任期間帝國學士院ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第二十四條 當選人ナキトキ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ又ハ當選人ナキニ至リ若ハ當選人其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルニ至リタル場合ニ於テ第十九條ノ規定ニ依リ當選人ヲ定ムルコトヲ得サルトキハ帝國學士院長ハ選舉ノ期日、選舉會場及投票ノ時間ヲ定メ選舉ノ期日ヨリ少クトモ二十日前ニ官報ヲ以テ之ヲ告示シ且各互選人ニ其ノ通知書ヲ發シ更ニ選

舉ヲ行ハシムヘシ

第二十五條 議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ貴族院議長ヨリ其ノ旨ヲ上奏シ勅旨ヲ以テ補闕選舉ヲ行フヘキコトヲ命シ及其ノ期日ヲ指定スヘシ

第二十六條 前二條ノ選舉ヲ同時ニ行フ場合ニ於テハ一ノ選舉ヲ以テ合併シテ之ヲ行フ

第二十七條 補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第二十八條 貴族院令第九條ノ規定ニ依リ貴族院ニ出訴スルノ期限ハ議院開會ノ後十日以内トス但シ開院中議員ニ勅任セラレタル場合ニ於テハ其ノ後十日以内ニ於テ出訴ノ期限トス
前項ノ期限ニ滿タスシテ議院閉會セラレ出訴スルコト能ハサルトキハ尙次ノ會期ノ開會後十日以内ニ出訴スルコトヲ得

附 則

本令ハ貴族院令第五條ノ二ノ規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

明治二十二年 二月十日勅令第十一號貴族院令抄錄

第五條ノ二 滿三十歳以上ノ男子ニシテ帝國學士院會員タル者ノ中ヨリ四人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ其ノ會員タルノ間七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第九 貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ニ關スル閣令

閣令第五號 (大正十四年八月二十一日官報)

貴族院帝國學士院會員議員ノ互選ニ用フル投票用紙、投票用封筒及投票函ノ様式ハ帝國學士院長之ヲ定メ内閣總理大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十 寄附金ヲ以テスル賞ニ關スル決議

(明治四十四年十一月十二日總會修正議決 同十二年三月十二日總會修正議決)
(同四十五年五月十二日總會修正議決 同十二年十二月十二日總會修正議決)
大正八年四月十二日總會修正議決

- 一 男爵三井八郎右衛門ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第二部ニ於テ毎年其ノ數ヲ一個トシ男爵岩崎久彌ヨリノ寄附金ヲ以テセル賞ハ第一部第二部各隔年ニ一個トス但シ場合ニ依リテハ部ニ於テ之ヲ分チ貳個以上ノ賞トスルコトヲ妨ケス
大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ内ヲ以テセル賞ハ之ヲ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ其ノ數ハ各部ヲ通シテ毎年四個トス
受賞者ナキトキハ之ニ對スル賞金ハ遞次翌年度ニ繰越シ之ヲ授與スルコトヲ得
- 二 賞ハ賞牌ニ賞記及賞金ヲ添ヘテ之ヲ授ク
- 三 寄附ノ條件ニ依リ寄附金ヨリ生スル利殖金ヲ賞又ハ研究費補助トシテ使用スルコトヲ得ル場合ニ於テ之ヲ賞トスルトキハ其ノ數及ヒ所屬ハ總會ニ於テ之ヲ定ム
- 四 前項ノ賞ニシテ記念ノ趣旨ヲ表明スルコトヲ要スル場合ニハ之ヲ

某記念賞ト稱シ賞金ニ賞記ヲ添ヘテ之ヲ授ク

三 二人以上共同ノ事業ニ對シテハ賞記ニ其ノ旨ヲ記シ各自ニ之ヲ授ク但シ賞金ハ分割セサルコトアルヘシ

第十一 條件附寄附金ニ關スル決議 (大正五年一月十二日 總會決議)

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル寄附金ノ使途ニ關シテハ總會又ハ部會ハ必要ナル審査及決議ヲ爲スヘシ

第十二 藤田男爵獎學費給與ニ關スル決議 (大正六年二月十二日 總會決議)

一 男爵藤田平太郎寄附ノ獎勵費ハ其ノ指定セラレタル用途ノ範圍ニ於テ有望ナル研究者ニ之ヲ與フ

二 獎學費ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ決議ニ依ル部會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス

三 獎學費ヲ受クヘキ者ノ數ハ各部ニ於テ毎年之ヲ定ム

獎學費ハ一人一箇年金三百圓トス但シ更ニ其ノ支給ヲ繼續スルコトヲ得

四 獎學費ヲ受ケタル者ノ氏名ハ寄附者ニ之ヲ報告ス

第十三 末松子爵夫人寄附羅馬法獎勵資金ノ

使途ニ關スル決議 (大正七年七月十二日第一會會議決)

(大正十年十一月十二日第一會會議決)

一 子爵夫人末松生子寄附羅馬法獎學資金ハ其ノ利殖金ノ一部ヲ以テ羅馬法律書籍ヲ購入シ獎學品トシテ各官公立大學中羅馬法ヲ教授セル各大學ノ大學院又ハ法科大學在學中ノ學生ニ與フルモノトス但シ適當ト認ムル他ノ學生ニ與フルコトアルヘシ
尚ホ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シ之ニ寄贈スルコトヲ得
利殖金ノ他ノ一部分ハ之ヲ積立テ羅馬法律書籍ノ出版費トシテ使用スヘキモノトス

二 獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ選定ハ第一部

- 部長ノ詮考ニ依ル但シ詮考事項ハ之ヲ部會及總會ニ報告スヘシ
獎學品ヲ受クヘキ者及書籍ヲ寄贈スヘキ圖書館ノ數並ニ出版費ト
シテ積立テ置クヘキ金額ハ相當ノ範圍ニ於テ毎年之ヲ定ム
三 獎學品ヲ受ケタル者ノ氏名及書籍ヲ寄贈シタル圖書館ノ名ハ之
ヲ寄附者ニ報告スヘシ

第十四 松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ關スル決議

(大正十一年四月十二日總會議決
大正十二年三月十二日總會修正議決)

- 一 松方公爵米壽祝賀會寄附ノ獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ元金ハ
永ク保存シテ之ヲ利殖シ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ
- 二 獎學費ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル學科ノ研究費、褒
賞費、講義費、學生費、出版費等ニ充テ其ノ他本院ニ於テ適當ト認ムル
事業費ニ之ヲ使用ス
- 三 獎學費使途ノ事項ニハ「松方記念」ノ稱ヲ冠ス

- 四 獎學費ノ使途並ニ其ノ受領者ノ選定ハ當該部會ノ決議ニ依ル部
會ノ決議ハ部長之ヲ總會ニ報告ス
- 五 獎學費ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告ス

第十五 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚 記念學術獎勵資金ノ使途ニ關スル決議

(大正十二年十二月總會議決)

- 一 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ノ
内ヲ以テセル學術研究資金ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東
宮御成婚記念」ノ稱ヲ冠シ該資金使途ノ事項ニハ之ニ依リタル旨ヲ
表明スルコト
- 二 研究資金ヲ受クヘキ者ノ選定ハ部會ノ議ヲ經テ總會ニ於テ之ヲ
決定ス
- 三 研究資金ヲ受ケタル者ノ氏名及研究事項ハ毎年之ヲ大阪毎日新

聞東京日日新聞兩社ニ報告ス

第十六 小池厚之助寄附獎學資金ノ使途ニ關スル決議

(大正十四年九月十九日臨時總會議決)

- 一 小池厚之助寄附獎學資金ハ寄附ノ條件ニ從ヒ其ノ總額ヲ基金トシテ永久ニ保存利殖シ其ノ利子ヲ研究費補助ニ充ツ
- 二 基金ヨリ生スル利子ノ中毎年度金參千圓ヲ控除シ特別補助資金トシテ之ヲ積立利殖シ殘餘ノ利子ノ一半ハ醫學ノ研究費補助ニ充テ他ノ一半ハ一般研究費補助ニ充ツ
- 三 特別補助資金及其ノ利殖金ハ特別重要事項ノ研究ニシテ特別ニ多額ノ補助金ヲ要スルモノニ對シ十分ナル補助ヲ爲サムトスルトキニ限リ之ヲ使用ス
- 四 研究費補助ヲ受クヘキ者ノ選定ハ本院總會ノ「學術研究費補助ニ關スル決議」ニ依リ之ヲ爲ス

- 五 研究費補助ヲ受ケタル者ノ氏名ハ其ノ研究事項ト共ニ毎年之ヲ小池家ニ報告ス

第十七 學術研究費補助ニ關スル決議

明治四十年七月十二日	總會議決
大正八年三月十二日	總會修正議決
大正十二年三月十二日	總會修正議決
大正十五年一月十二日	總會修正議決
昭和二年六月十二日	總會修正議決

- 一 會員ニシテ學術研究費ノ補助ヲ要スルコトアルトキハ研究ノ目的ヲ明記シ之ニ要スル概算費目ヲ十二月末日マテニ部長ニ申出ツヘシ
- 會員ニ非サル者ニ對スル學術研究費ノ補助ハ會員又ハ官公私立大學ノ總長若クハ學長ノ推薦ニ依ル
- 前項ノ推薦ハ院長ニ宛テ毎年十二月末日迄ニ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

- 二 決議一ノ申出及推薦ハ研究事項ノ屬スル部ニ於テ之ヲ審査スル爲毎年一月ノ部會ニ於テ部長其ノ部ニ屬スル審査委員若干名ヲ指名ス(一月部會ヲ開カサルモ部長ハ審査委員ヲ指名ス)
- 部長ハ審査委員會ヲ召集シ其ノ議長ト爲ル審査委員會ノ決議ハ一月末日マテニ部長之ヲ院長ニ報告スヘシ
- 三 學術研究費補助案ハ部長ノ報告ニ基キ役員會議ニ於テ之ヲ定メ二月ノ總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ受クヘシ但シ緊急ノ場合ニ於テハ院長ハ決議一及二ノ手續ニ依ラス部長ノ申請ニ因リ役員會議ニ於テ決定シ次回ノ總會ニ於テ之ヲ報告スヘシ
- 四 學術研究費ノ補助ヲ受ケタル者ハ研究結了後直ニ其ノ成績ヲ報告スヘシ
- 研究數年ニ涉ル場合ニ於テハ毎年十二月末日マテニ研究進行ノ狀況ヲ記載セル報告書ヲ部長ニ提出スヘシ
- 五 補助ヲ受ケタル研究ノ成績報告書ニハ本院ヨリ研究費ノ補助ヲ

受ケタル旨ヲ明記スルコトヲ要ス

第十八 高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術獎

勵資金受領候補者選定ニ關スル決議

(昭和三年一月十二日總會議決)

本院ヨリ高松宮家ニ推薦スヘキ有栖川宮記念學術研究獎勵資金受領候補者ノ選定ニ關シテハ授賞ノ場合ニハ本院授賞規則ヲ學術研究費補助ノ場合ニハ本院學術研究費補助ニ關スル決議ヲ準用ス

但シ授賞事項又ハ研究費補助事項ノ提出時期ハ左ノ通りトス

- 一 授賞事項ノ提出期ハ毎年二月又ハ時宜ニ依リ三月トス
- 二 學術研究費補助事項ノ提出期ハ本院會員ヨリスルモノハ毎年四月末日及十月末日迄ノ二回トシ官公私立大學總長又ハ學長ヨリスルモノハ毎年十月末日迄トス

第十九 學術研究費補助推薦ニ關スル決議 (大正五年一月二十日總會議決)

高松宮家へ推薦スヘキ有栖川宮記念學術獎勵資金受領候補者選定ニ關スル決議

學術研究費補助推薦ニ關スル決議

學術研究ノ獎勵ヲ目的トスル事業ニ關シ推薦ノ依頼ヲ承諾シタルト
キハ總會又ハ部會ハ委員ヲ選出シ必要ナル審査ヲ爲サシメ其ノ結果
ニ依リ決議ヲ爲スヘシ

第二十 出版ニ關スル決議

（明治四十年七月十二日總會議決
同四十年十一月十二日總會修正議決
明治四十年十一月十二日總會修正議決）

- 一 毎年一回年報ヲ刊行シテ報告ヲ登載スヘシ
- 二 帝國學士院規程第七條第八條及帝國學士院會則第十一條第二項
第十二條ニ依ル論文報告講演等ハ帝國學士院紀事又ハ別冊トシテ
刊行スルコトヲ得
- 三 圖書又ハ論文ヲ編纂校訂翻譯若クハ謄寫セシメ又ハ之ヲ出版ス
ルコトヲ得
- 四 第二項ニ掲ケタル論文報告及講演ヲ帝國學士院紀事又ハ別冊以
外ニ掲載セントスルトキハ院長ノ許可ヲ經ルコトヲ要ス

第二十一 帝國學士院紀事及別冊ノ出版ニ關スル決議

（明治四十年十二月十二日總會議決
同四十年十二月十二日總會修正議決
大正十四年七月十二日總會修正議決）

- 一 帝國學士院紀事ハ集會ノ錄事及會員ノ提出セル論文報告書等ヲ
登載ス
- 二 長編ノ論文報告書等ハ別冊トシテ隨時刊行シ其ノ概要ヲ紀事ニ
登載ス
- 三 會員ニ非サル者ノ論文報告書等ニシテ會員ノ紹介ニ依リ提出セ
ラレタルトキハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ掲クルコトアルヘシ
- 四 既ニ他ニ出版セル論文報告書等ハ之ヲ紀事又ハ別冊ニ登載セス
但シ其ノ概要ヲ抄録スルハ此限ニアラス
- 五 出版委員若干名ヲ置キ出版ニ關スル事務ヲ委任ス
出版委員ハ論文報告書等ノ取捨節略ニ關シ疑アルトキハ之ヲ總會

又ハ部會ニ提出スルコトヲ得

六 出版委員ハ部ニ於テ之ヲ選出シ幹事ヲ以テ委員長トス
部選出委員ノ數ハ各部之ヲ定メ其ノ任期ヲ三箇年トス

第二十二 帝國學士院學術研究獎勵金運用委員會規則

(昭和三年一月十二日總會議決)

第一條 本院ニ學術研究獎勵金運用委員會ヲ置ク

運用委員會ハ院長ノ監督ニ屬シ學術研究獎勵金ノ運用ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 運用委員會ハ委員長一人委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長ハ本院幹事ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ本院會員中ヨリ院長之ヲ囑託ス

院長必要アリト認ムルトキハ文部省會計課長又ハ他ノ文部省高等官ニ委員ヲ囑託スルコトヲ得

第三條 運用委員會ハ委員長隨時之ヲ招集ス

第四條 院長ハ學術研究獎勵金ノ運用方法ヲ運用委員會ニ諮問スヘシ

學術研究獎勵金ノ運用ハ左ノ方法ニ據ル

一 國債ノ應募又ハ買入

二 運用委員會ノ適當ト認ムル地方債、社債又ハ產業債券ノ應募又ハ買入

三 大藏省預金部ニ預入レ又ハ運用委員會ノ適當ト認ムル銀行若ハ信託會社ニ定期預金若ハ金錢信託ト爲スコト

學術研究獎勵金ハ一時ノ必要アル場合ニ限リ之ヲ運用委員會ノ適當ト認ムル銀行ニ特別當座預金ト爲スコトヲ得

第五條 運用委員會ハ毎年度學術研究獎勵金運用報告書ヲ院長ニ提出シ院長ハ之ヲ總會ニ報告スヘシ

第二十三 學術研究獎勵金

一 御下賜金

皇室御下賜金ノ一

皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ明治四十三年ヨリ十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレ引續キ大正九年以降十箇年間年々金貳千圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ賞典費ニ充ツ

皇室御下賜金ノ二

皇室ヨリ學術研究御獎勵ノ思召ヲ以テ大正九年一月以降年々金壹萬圓ヲ下賜セラレタルモノニシテ學術研究ノ資ニ充ツ

二 寄附金

(一) 男爵三井八郎右衛門寄附金

男爵三井八郎右衛門ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓宛合計金壹萬圓更ニ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計

金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ第二部ニ屬スル賞典費ニ充ツ

(二) 三菱合資會社寄附金

三菱合資會社々長男爵岩崎久彌ヨリ明治四十四年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ同會社々長男爵岩崎小彌太ヨリ大正十年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ賞典費ニ充ツ

(三) 工學博士藥學博士高峰讓吉寄附金

大正元年工學博士藥學博士高峰讓吉ヨリ金五千圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利殖金ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(四) 男爵住友吉左衛門寄附金

男爵住友吉左衛門ヨリ大正元年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ更ニ大正十一年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシ

テ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(五) 男爵古河虎之助寄附金

男爵古河虎之助ヨリ大正二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓更ニ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附シ其ノ使用方法ハ本院ニ一任セルモノニシテ之ヲ一般學術研究費補助ニ充ツ

(六) 男爵藤田平太郎寄附金

大正四年男爵藤田平太郎ヨリ金貳萬貳千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニヨリ金貳千圓ヲ羅馬法學書出版費補助トシテ之ヲ使用シ金壹萬圓ヲ羅馬法學獎學資金トシ金壹萬圓ヲ採鑛冶金學及關係學科獎學資金トシ各獎學資金ヨリ生スル利殖金ヲ東京帝國大學及京都帝國大學ノ大學院又ハ分科大學在學中ノ學生ノ獎學費ニ充ツ

(七) 三井合名會社寄附金

大正五年三井合名會社々長男爵三井八郎右衛門ヨリ左ノ出版費トシテ金參千圓ヲ寄附セルモノナリ

金壹千圓 大日本數學史ノ增補出版費

金貳千圓 伊能忠敬測地事蹟調查事項出版費

(八) 山下龜三郎寄附金ノ一

山下龜三郎ヨリ大正五年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ船舶航海其他之ニ關スル學術研究ノ資ニ充ツ

但シ右金額ノ納付方法ハ使途ノ狀況ニ於テ隨時之ヲ變更スルコトヲ得

(九) 山下龜三郎寄附金ノ二

山下龜三郎ヨリ大正十二年以降十箇年間毎年金壹千圓ツ、合計金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ國際關係ノ學事費ニ之ヲ使用ス

(一〇) 故桂公爵記念事業會寄附金

大正六年故桂公爵記念事業會總代男爵澁澤榮一ヨリ學術研究獎勵ノ爲金貳萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

元金ハ桂學術獎勵基金トシテ保存シ之ヨリ生スル利殖金ノ全部又ハ一部ヲ

- 一 學術研究ニ依リ社會ニ多大ノ貢獻ヲ爲シタリト認メラル、者ニ賞トシテ與フルカ又ハ
- 二 學術研究費補助トシテ之ヲ使用シ
- 三 孰レモ桂學術獎勵基金ニ據リタルコトヲ表明スルコト但シ場合ニ依リ(一)若クハ(二)ヲ選行シ又ハ二者ヲ併行スルハ帝國學士院ノ任意タルヘキコト

(一) 子爵夫人末松生子寄附金

大正七年子爵夫人末松生子ヨリ羅馬法獎勵資金トシテ有價證券額面金五千百圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

資金ノ利殖金ヲ以テ毎年若干宛羅馬法律書ヲ購入シ適宜ノ方決ニ依リ可然學生ニ之ヲ分與シ又ハ場合ニ依リ相當ノ圖書館ヲ選定シテ之ニ寄贈スヘキコト尙ホ必要ノ場合ニハ右法律書ノ印刷費ニ充ツルコト

(二) 松方公爵米壽祝賀會寄附金

大正十一年松方公爵米壽祝賀會發起人總代男爵阪谷芳郎平山成信ヨリ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金トシテ金拾八萬圓ヲ寄附セル

モノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 本資金ハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト
- 二 元金ハ永ク之ヲ保存シ其ノ利子ノミヲ使用スルコト
- 三 利子ハ主トシテ財政經濟農業及漢學ニ關スル研究ノ補助褒賞等ニ使用スルコト
- 四 前項以外タリト雖モ帝國學士院ニ於テ相當ト認ムル事業ニ利子ヲ使用スルハ妨ケナキコト
- 五 利子ヲ以テ施行シタル事項ハ毎年之ヲ松方公爵家ニ報告スルコト

同 追加寄附金ノ一

大正十二年四月松方公爵米壽祝賀會發起人總代平山成信ヨリ金五千四百五拾四圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ヨリ生スル利子ニ加ヘ獎學ノ目的ニ使用ス

同 追加寄附金ノ二

大正十二年五月松方公爵米壽祝賀會殘務整理委員男爵阪谷芳郎ヨリ金五百六拾圓ヲ寄附セルモノニシテ松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ノ中ヘ加ヘ使用ス

(一三) 財團法人原田積善會寄附金

財團法人原田積善會理事原田二郎ヨリ大正十二年以降壹百箇年間
毎年金壹萬圓(四月及九月ノ兩月ニ分納)ツ、合計金壹百萬圓ヲ寄附
セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 金壹萬圓ノ内金二千圓ハ之ヲ原田二郎獎學基金トシテ積立テ適當ノ方法ヲ以テ永遠ニ利殖スルコト
但シ五十年後ニアリテハ右基金ヨリ生スル利子ヲ帝國學士院ニ於テ適宜使用スルモ妨ケナキコト
- 二 金壹萬圓ノ内金八千圓ハ毎年獎學ノ爲使用スルコトトシ其方法ハ總テ帝國學士院ニ一任スルコト
- 三 本寄附金ニヨリ施行シタル事項ハ毎年之ヲ原田積善會ヘ報告スルコト

(一四) 高峰保全株式會社寄附金

高峰保全株式會社取締役鹽原又策ヨリ賞又ハ研究資ノ基金トテシ
大正十二年以降五箇年間毎年金五千圓(一月及七月ノ二期ニ分納)ツ
、合計金貳萬五千圓ヲ寄附セルモノニシテ其ノ利殖金ヲ學術研究
ノ賞又ハ資トシテ使用ス

(一五) 三共株式會社寄附金

三共株式會社取締役鹽原又策ヨリ前記高峰保全株式會社寄附ニ係
ル基金ノ利子ヲ大正十三年ヨリ金壹千圓ツ、使用シ得ル爲其ノ不
足補充ノ目的ヲ以テ大正十二年ヨリ三箇年ニ涉リ金貳千圓ヲ寄附
セルモノナリ

(一六) 大阪毎日新聞社長本山彦一寄附金

大阪毎日新聞社長本山彦一ヨリ東宮御成婚記念學術獎勵資金トシ
テ大正十三年以降十箇年間毎年金壹萬圓ツ、合計金拾萬圓ヲ寄附
セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 毎年金壹萬圓ノ中金四千圓ハ賞金トシ金六千圓ハ研究資金トシテ之ヲ使用セラレタキコト
- 二 賞ハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄附東宮御成婚記念賞」ト稱シ賞牌及賞記ト共ニ金壹千圓宛四人
ニ之ヲ授與セラシタキコト 但シ賞牌ノ制式ハ貴院ニ一任スルコトトシ其ノ作製ニ要スル費用ハ別
リ本社ヨリ之ヲ貴院ニ納付ス
- 三 受賞者ナキトハ賞金ノ一部又ハ全部ヲ遞時翌年ニ繰越シテ使用セラル、モ妨ケナキコト
- 四 研究資金ノ使用方法ハ之ヲ貴院ニ一任スルモ該資金使途ノ事項ニハ「大阪毎日新聞東京日日新聞寄

附東宮御成婚記念ノ稱ヲ冠セラレタキコト

(一七) メンデンホール寄附金

米國人元東京大學教師故トマス・メンデンホールノ遺言ニ因リ同人息チャールス・メンデンホールヨリ大正十四年米貨二千五百弗ヲ寄附セルモノニシテ天文學及物理學ニ關スル獎學費ニ充ツ

(一八) 小池厚之助寄附金

小池國三ノ遺志ニ依リ同人息小池厚之助ヨリ大正十四年五月金參拾萬圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 寄附金總額ハ之ヲ基金トシテ永久ニ保存シ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ利殖スルコト
- 二 右基金ヨリ生スル利子ハ貴院ノ選定ニ依ル學術研究ノ補助資金ニ充ツルコト
- 三 右基金ヨリ生スル利子ノ中ヨリ毎年金參千圓ヲ控除シ其ノ殘額ノ一半ハ醫學ノ研究補助費ニ充テ他ノ半額ハ一般研究ノ補助費ニ充ツヘキコト
- 四 上記控除セル金參千圓ハ特別補助資金トシテ毎年之ヲ積立テ利殖シ特ニ多額ノ資金ヲ投スルニアラサレハ研究ヲナシ得サルカ如キ特別重要ナル事項ノ出現ヲ俟テ之ニ十分ナル補助ヲ與フル事

同 追加寄附金

小池厚之助ヨリ大正十五年三月金壹萬四千七百貳拾圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(一九) 岡野節寄附金

岡野節ヨリ大正十五年二月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ右基金ハ之ヲ永久ニ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ學術研究ノ補助費ニ充ツ

同 追加寄附金

男爵岡野節ヨリ大正十五年三月金參拾貳圓餘ヲ寄附セルモノニシテ學術研究ノ補助費ニ充ツ

(二〇) 小津清左衛門寄附金

小津清左衛門ヨリ學術獎勵金トシテ大正十五年九月金五千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件ニ依リ「南朝ノ柱石北畠親房及びその子孫ノ事蹟」ノ研究費ニ充ツ

(二一) 中澤つる寄附金

故中澤房則ノ遺志ニ依リ中澤つるヨリ學術獎勵金トシテ昭和二年

十月有價證券額面金壹萬圓ヲ寄附セルモノニシテ元金ハ之ヲ保存シ之ヨリ生スル利子ヲ一般學術研究費ノ補助ニ充ツ

(二三) 古籙篇刊行會記念獎學資金

古籙篇刊行會理事長、子爵渡邊千冬ヨリ昭和三年七月金貳萬九千圓ヲ寄附セルモノニシテ寄附ノ條件左ノ如シ

- 一 寄附セントスル所ノ金員ハ古籙篇刊行會記念獎學資金ト稱スルコト
- 二 古籙篇刊行會記念獎學資金ハ、金參萬圓ニ達スルヲ俟テ、其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツルコト、隨テ願書所載ノ金員ハ、金參萬圓ニ達スルマテノ間、貴院ニ於テ据置利殖ノ途ヲ講セラレタキコト
- 三 前記獎學費ハ、漢學ニ關スル研究、若クハ著作出版ノ補助ニ使用セラレタキコト

(二三) 元古籙篇刊行會理事寄附金

元古籙篇刊行會理事、服部宇之吉ヨリ昭和四年五月金七百貳拾五圓ヲ寄附セルモノニシテ前項寄附金ニ加ヘ其ノ利子ヲ獎學費ニ充ツ

第二十四 出版物

- 假名遣沿革史料 明治四十二年三月發行 第一卷第一號
- 帝國學士院紀事(英文) 明治四十五年三月發行 第一卷第一號
- 帝國學士院紀事(英文) 大正二年三月發行 第一卷第二號
- 帝國學士院第一部論文集(邦文) 大正二年六月發行 第一號
- 帝國學士院紀事(英文) 大正二年十一月發行 第一卷第三卷
- 帝國學士院第二部メモアル(英文) 大正二年十一月發行 第一卷第一號
- ユ帝欽定羅馬法學提要(末松謙澄翻譯) 大正二年十二月發行 第一卷第四號
- 帝國學士院紀事(英文) 大正三年七月四版發行 第一卷第四號
- 「ウルピアームス」羅馬法範(末松謙澄翻譯) 大正四年三月發行 同十三年七月三版發行
- 「ガローイウス」羅馬法解說(末松謙澄翻譯) 大正四年三月發行 同十三年七月三版發行

- 伊能忠敬(長岡半太郎監修大谷亮吉編著) 大正六年三月發行
- 和算ノ方陣問題(菊池大麓監修三上義夫編著) 大正六年三月發行
- 諸外國學士院ノ組織及授賞制(藤澤利喜太郎編) 明治三十三年印刷
大正七年三月再版發行
- 増修日本數學史(遠藤利貞遺著) 大正七年九月發行
- 帝國學士院紀事(英文) 第一卷第五號 大正七年十月發行
藤澤利喜太郎論文 代數的平均ニ就テ
- 帝國學士院第一部論文集(邦文) 第二號 大正八年二月發行
大谷亮吉篇著 伊能忠敬ノ傳記並ニ其事業概説
穂積陳重著 諱ニ關スル疑
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第二卷第一號 大正五年、昭和二年發行
至同 第十號
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第三卷第一號 昭和二、三年發行
至同 第十號
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第四卷第一號 昭和三、四年發行
至同 第十號
- 帝國學士院紀事(歐文) 自第五卷第五號 昭和四年發行
至同 第六號

第二十五 學術報告

(自明治四十年四月 至昭和三年三月 略之)

提出年月

題

目

提出者ハ又講演者

昭和三年四月

- 一 ビオスに關する化學的研究 濱鈴 村木 文保 次助
- 一 グリセライドの分離に關する研究 第四報家蠶蛹油 增鈴 横山 山木 文良 國助 豐助
- 一 同上 第五報鱈肝油 (以上三件 鈴木會員紹介)
- 一 凋萎しつゝある植物の葉内水分含有量の變化 額 纈 理一郎
- 一 二三の雌雄異株植物に於ける染色體數と不等對染色體に就て (以上二件 三好會員紹介) 篠 遠 喜 人
- 一 切支丹傳導に於ける醫療事業と日本人醫師 會員 姊崎 正 治
- 一 東京に於ける土地の傾斜運動に就いて (今村會員紹介) 會員 波江野 清 藏
- 一 關東大地震前に於ける土地の傾斜運動に就いて 會員 今村 明 恒

- 一 風の方向の緯度觀察に及ぼす影響 (木村會員紹介)
 - 一 皮膚を通じて昆蟲消化管の蠕動運動を認め得るや (石川會員紹介)
 - 一 ホイツトマニア屬の二新種に就いて 會員
 - 一 翼横型の性能測定に於ける風洞壁の影響 (田丸會員紹介)
 - 一 風の息に就いて 會員
 - 一 消化液の分泌の髓液神經調節 (三浦會員紹介)
 - 一 稻馬鹿苗病原菌の刺激作用に關する實驗
 - 一 稻胡麻葉枯病原菌の毒作用に關する實驗 (池野會員紹介)
- 昭和三年五月
- 一 フィリップピン群島産第三紀有孔蟲岩 會員
 - 一 みづきんばいの花粉發生 (三好會員紹介)
 - 一 脂肪缺乏飼料の移植瘤の發育に及ぼす影響に就いて
 - 一 ヴィタミンB缺乏の場合に於ける筋肉中のグリタチオン及其還元作用に就いて

- 一 太平洋の西部にて獲たる新しきクレオルスに就て (以上二件 鈴木會員紹介)
- 一 不規則なる衝擊に因る振動系の運動 會員
- 一 丹後地震と陸地の水準移動 會員
- 一 地殻水面上に於ける變動と其の垂直移動との關係
- 一 地震後の地殻垂直運動とアイソスタシー
- 一 短波長の電波に對するエチール、アルコールの電媒常數と吸收率 (中村(清)會員紹介)
- 一 或審級數の部分和の特性に就て (高木會員紹介)
- 一 爆發放電により散逸せる微子の速度 會員
- 一 電氣爆發をなせる針金及び糸の活動寫眞スケッチ
- 一 眞空爆發放電により弧線火花線との濾過
- 一 蛙、蟾蜍の腎臟人工灌流に就て
- 一 大脳垂體後葉物質の尿生成に及ぼす影響
- 一 レプトスピラ、イクテロイデス、イクテロヘモラギツエ及びヘパ
- 一 ドマダスの蚊によりて傳染するヤ否やに就て
- 一 家兎の實驗的日射病に於ける血糖の研究 (以上四件 三浦會員紹介)

- 一 タンゴイカに於ける共棲發光に就て (石川會員紹介) 岸 貞治郎
- 一 日本に産するケリオソマの種類に就て 丘 淺次郎
- 一 蟾蜍の腎に於ける尿成分々泌の場所に就いて 第一無機物 外田 村 憲 名造
- 一 同上 第二有機物 外田 村 憲 名造
- 一 腎臟細管の機能の研究 藤 田 平
- 一 カッフエーの利尿作用の認容力 木 原 玉 汝
- 一 糖尿病に於ける消化液及び神經による調節 外岡 田 清 三 名郎
- 一 胃分泌の障害せられたるさきの脾液の分泌 外岡 田 清 三 名郎
- 一 熱の肝臟に於ける糖分新陳代謝に及ぼす影響 岩 澤 治 義
- 一 閉鎖せる氣胸の血小板増加を起す實驗的研究 岡 崎 祇 容
- 一 食道通過障礙の實驗的研究 岡 崎 祇 容
- 一 細菌の呼吸色素チトクロームに就いて (以上九件 三浦會員紹介) 矢 野 秀 博
- 一 腫瘍組織のチトクロームに就いて 中 田 厚 和

- 一 ヴイタミンと腫瘍の増殖に就いて 第一報 (以上三件 鈴木會員紹介) 中 染 川 英 和 一 郎
- 一 明治四十二年姉川地震の前微井に地震當時の地形變動に就いて 今 村 明 恒
- 一 近畿地方の地震活動特に濃尾大地震の原因に就いて (姉崎會員紹介) 平 等 通 昭
- 一 馬鳴と解脫道品の關係 片 岡 猛 夫
- 一 朝顔の花色アントシアニンに就いて 黒 田 チ カ
- 一 紅花の色素カルサミンに就いて (以上二件 眞島會員紹介) 寺 東 田 寅 三 彦
- 一 地震と海底の變化 (高木會員紹介) 清 水 辰 次 郎
- 一 微分方程式の解の唯一性の充分なる條件に就いて (寺田會員紹介) 菊 池 正 士
- 一 雲母膜による陰極線の廻折現象 池 野 成 一 郎
- 一 たうがらしの雜種に於ける支配變化の一例に就いて 小 室 英 夫
- 一 放射された大豆種子から出た根の上に出來たレンドケン腫瘍及び側根の差に就いて (池野會員紹介) 會 員
- 一 眞空に於けるスペクトロル線の出現の遅れ 長 岡 哲 五 郎

- 一 カドミウム赤線に現したる國際標準米の測定
- 一 波長を異にしたる光による螢石の螢光

(以上二件 長岡會員紹介)

昭和三年十月

- 一 本邦石炭の乾溜に就て
- 一 ユスリカの一新規に就て
- 一 曲率球を原素とする等角曲面論に就て
- 一 空電の方向の観測
- 一 雲母膜に依る陰極線の廻折(第四報)
- 一 方解石による陰極線の廻折
- 一 低氣壓による海面水位の變化
- 一 瓦斯の點火に對するスパークの性質の影響
- 一 脂肪分解酵素の研究 (四篇)

(以上三件 寺田會員紹介)

岩々木崎	熊重三	西久光	渡邊
佐々木	忠次郎		
高須	鶴三郎		
小幡	重一		
菊地	正士		
菊地	正士		
西川	正治		
山田	寅彦		
寺口	生彦		
湯田	寅彦		
行徳	清比古		
寺島	健一助		

- 第一、臓器内脂肪分解酵素及び其の作用の毒物による制止
- 第二、十二指腸内の脂肪分解酵素の検定法の分解
- 第三、脂肪分解酵素と蛋白質
- 第四、脂肪分解酵素は二箇の作用せざる物質に分解し得ること (三浦會員紹介)

- 一 近畿地方地震活動に關する補遺
- 一 聯立通常微分方程式に就て
- 一 聯立通常微分方程式の積分列に就て

(以上二件 吉江會員紹介)

- 一 ヒカリエビ科の鰓に就て
- 一 アンメラリオブシスロバトアンマライア及アンメラリテス屬に就て
- 一 臺灣産第三紀有孔蟲岩
- 一 腦頭蓋縫合に就て
- 一 風洞の壁が模型の揚力係數に及ぼす影響に就て
- 一 曲率球を原素とする等角曲面論に就いて(第二報)

岸上	鎌吉	今村	明恒
小岩井	兼長輝	福原	滿洲雄
半澤	長四郎	南雲	道夫
横尾	安夫		
佐々木	達次郎		
高須	鶴三郎		

- 一 爬虫類の染色體豫報二、カナヘビの染色體 (石川會員紹介)
- 一 スパークのスペクトラに就て (寺田會員紹介)
- 一 シンキトリウム屬の相對的雌性
- 一 所謂車軸核と云ふものは發生的に一種特別のものと考えへてよいか (以上二件 池野會員紹介)
- 一 第一回普選總選舉の結果の統計的研究(講演)

昭和三年十一月

- 一 グロシフォオニヤの日本産二種(スマラケチナ及びブラタ)の記載 會員 丘 淺次郎
- 一 カロブテラ、リウアノグイの形態及び變異性に就いて
- 一 たまみぢんこの群衆増大
- 一 たまみぢんこの蕃殖率に及ぼす温度の影響
- 一 たまみぢんこの蕃殖率に及ぼす群居密度の影響
- 一 めだかの産卵に及ぼす群居密度の影響 (丘會員紹介)
- 一 音の透過反射及吸率の測定 (田丸會員紹介)
- 一 櫻花の生活期限に及ぼす低温度の影響 會員 三好 孝二

- 一 ギリクレー級數に由つて定義せらるゝ函數の特異點に就て
- 一 絶対收斂するフーリエ級數を有する函數類に就て
- 一 等角空間に於ける球合同の理論の最終的基本定理(第一報)
- 一 同 上 (第二報)

(以上四件 藤原會員紹介)

- 一 丹後地震後に於ける同地方の地殻運動に就て
- 一 放電により油の中に生ずる渦環に就て (以上二件 寺田會員紹介)

(以上二件 寺田會員紹介)

- 一 アブラナ屬に於けるフソイドガミーの一例の細胞學的研究 (池野會員紹介)
- 一 三種の神器の意義(講演)

昭和三年十二月

- 一 支那産の淡水蟹に寄生するヘミクレプシスの一新種に就て 會員 丘 淺次郎
- 一 水平振動記録器の不安定なることを防ぐ一装置考案 會員 末廣 恭二
- 一 エーロフォイル及種々の障害物の周圍を通過する空氣の流線運動の活動寫眞による研究
- 一 内部歪核による半無限固體の表面傾斜 (以上二件 末廣會員紹介)

- 一 數種の有機溶劑の透電恒數
 - 一 數種のアルコホルの低温度に於ける密度
 - 一 數種の有機溶劑の低温度に於ける比熱
 - 一 數種のアルコホル低温度に於ける粘度
 - 一 殆んど週期的なる函數の打張
 - 一 曲率球の「コンダグリーエンス」幾何學に就て
 - 一 等角空間に於ける圓列の理論に就て(第一報)
 - 一 三次元射影的空間に於ける圓錐曲線の微分幾何學(第四報)
 - 一 フェルマーの豫想に就て
 - 一 定義方程式の有理解に就て
 - 一 ゴトウイカの發光器の研究
 - 一 家蠶の異つたレース間に行つた卵集移殖と違つた外圍の爲めに同一種から生じたものの強さに就いて
- (以上四件 眞島會員紹介)
- (以上四件 藤原會員紹介)
- (以上二件 高木會員紹介)
- (以上二件 石川會員紹介)

松生 義勝
箕野 新六
箕野 芳雄
原作 建新
箕作 徳新
外村 徳三

泉 信一
注田 忠彦
高須 鶴三郎
河口 商次

森島 太郎
竹田 清

岸谷 貞次郎
梅谷 與七郎

- 一 カブラ屬に於けるブソイドガミー一例の細胞學研究
 - 一 カブラ屬種間雜婚の豫報
 - 一 南滿洲先カムブリヤ層の層序に就て
 - 一 翼の理論の新考案
- (以上二件 池野會員紹介)
- (矢部會員紹介)
- (田丸會員紹介)

野口 彌吉
盛永 俊太郎
青地 乙治
野口 哲夫

- 一 ヴイタミンと腫瘍の増殖(第二報)
 - 一 低壓に於ける絶縁體上の縞狀放電に就て
 - 一 縞狀放電に伴ふ絶縁液體の運動
 - 一 縞狀放電路による高壓交流の整流
 - 一 時計の遅速度變化と地震の發生との關係
 - 一 エネルギー密度の最大限並に高温度に於ける瓦斯の變態
 - 一 ホーセ、アインシュタイン並にフェルミ・ディラックの統計とエネルギー密度の最大限
- (鈴木會員紹介)
- (以上六件 寺田會員紹介)
- (三好會員紹介)

中川 英和
染川 一郎
伊藤 直
辻本 巳之助
石本 光四郎
辻本 清太郎
鈴木 清太郎

- 一 ほつぶの四連染色體に就て
 - 一 擴張せる直交函數の一系統に就て
- 會員
- 篠遠 喜人
藤原 松三郎

昭和四年一月

- 一 日本海發光イカの新種、アブラリア・ジャボニカに就て (石川會員紹介)
- 一 紅の色素の化學的構造に就て(第三) (眞島會員紹介)
- 一 溫度滴定法に依る強酸の存在に於ける無水醋酸の定量 (依會員紹介)
- 一 短波長電波に對する數種のアルコールの透電恒數及吸收率 (中村(清)會員紹介)
- 一 アブラナ及びダイコン屬雜種の豫報 (池野會員紹介)
- 一 西南日本中央地質構造線上に於ける二三の重要な事項 (矢部會員紹介)
- 一 南滿洲産龜類(?)卵の化石

會員

石川 昌
 黒田 チカ
 宗宮 尙行
 水島 三一郎
 福島 榮二
 森下 正信
 矢部 長右衛門
 尾崎 金

昭和四年二月

- 一 厚サニ變化ある薄き回轉圓板内の應力
- 一 内部にある多量原によるレーレー波の生成 (以上二件 末廣會員紹介)
- 一 末梢神經のレントゲン寫眞法の豫報
- 一 淋巴管のレントゲン寫眞及淋巴の流動に就ての小報告 (以上二件 三浦會員紹介)

西妹 安酒 豐太 寛郎
 村澤 克雄
 源太郎
 尾形 弘
 岡三省 名吾

- 一 滿洲のナルドピシヤ地質時代化石 (小藤會員紹介)
- 一 蜥蜴のXクロモソームに就て (石川會員紹介)
- 一 小惑星の軌道の修正(第三報)
- 一 柄を有する新しき單獨海鞘類ボトキンチャ、ツルボヤに就て (藤原會員紹介)
- 一 タウパーの定理の一つの擴張
- 一 有理函型數の理論に就いて
- 一 相對的アーベル數體のフューラーに就いて (以上二件 高木會員紹介)
- 一 信濃中部地方第三紀層の地質構造 (小川會員紹介)
- 一 二エチセレン、四メチル錫並に四メチル鉛の蒸氣壓
- 一 處理水素の露點比重及燃燒範圍 (以上二件 依會員紹介)
- 一 江戸時代の庶民教育に於ける往來物特に地理科に關するものに就て (三上會員紹介)

會員

小林 貞一
 森田 淳一
 秋山 清次
 丘 淺次郎
 泉 信一
 清水 辰次郎
 彌永 昌吉
 本間 不二雄
 永田 井中 雄三郎
 永田 井中 雄三郎
 石川 謙

昭和四年三月

- 一 關東大地震の一因子として岩槻地震帶

會員 小藤 文次郎

- 一 日本の古生層石炭の研究後報告 (小藤會員紹介)
- 一 朝鮮石灰洞中に發見せる獸類化石
- 一 太陽の長期黒點の固有運動 (平山(信)會員紹介)
- 一 炭酸瓦斯入密閉並に密閉にて四個年貯藏したる玄米の發芽力榮養分 (吉川會員紹介)
- 一 及びビタミンB (石川會員紹介)
- 一 日本産新湖沼棲ヒドロイド (岸上會員紹介)
- 一 本年一月十三日の千島地震に就て
- 一 土壤中にある腹毛纖毛蟲の二新種
- 一 アグネシア屬の日本産第二種
- 一 スパークに由る瓦斯の點火
- 一 日本産食用菌の一新種なめこ
- 一 硫酸酸化細菌の三新種に就て (以上二件 三好會員紹介)
- 一 結晶體に於ける「ランマ」効果 (以上二件 長岡會員紹介)
- 一 カドミウム赤線波長數を以て二五米エーテリン線の檢定方法

會員

德永重康
 早乙女清房
 近藤萬太郎
 岡村修保
 内田昇三
 今村恒健
 澁谷正健
 丘谷明
 寺田淺次郎
 湯本龍三
 山本篤太郎
 伊藤篤太郎
 江本義數
 西邊久光
 今渡泉門助

- 一 或種のマトリックスのキャラクタースティック方程式の根に就て
- 一 有限輪に附屬する群に就て (以上二件 高木會員紹介)
- 一 粉末結晶に因る陰極線の分散 (寺田會員紹介)
- 一 ハンケルの變換に就て (藤原會員紹介)

辻正次郎
 田健次郎
 武藤俊三郎
 山口太一郎
 泉信一

第二十六 授賞事項及受賞者

明治四十四年七月五日

恩賜賞 第二號 地軸變動ノ研究特ニZ項ノ發見

理學博士 木村 榮

明治四十五年五月十二日

同 第二號

佛文日清戰役國際法論及佛文日露陸戰國際法論

文學博士 ×有賀長雄

同 第三號 日本醫學史

富士川 游

同 第四號 公孫樹ノ精蟲ノ發見

×平瀨作五郎

同 第五號 蘇鐵ノ精蟲ノ發見

理學博士 池野成一郎

帝國學士院賞 第一號 アドレナリンノ發見

工學博士 ×高峰讓吉

大正二年七月五日

恩賜賞 第六號 續日本後紀纂註

×村岡良弼

同 第七號 腦神經起首ノ研究

醫學博士 上坂熊勝

帝國學士院賞 第二號 外部寄生性吸蟲類ノ研究

理學博士 五島清太郎

同 第三號 軍艦ノ設計殊ニ巡洋戰艦ノ設計

近藤基樹

大正三年七月五日

恩賜賞 第八號

哺乳動物ノ心臟ニ於ケル刺戟傳導筋系統ノ研究

醫學博士 田原 淳

帝國學士院賞 第四號 左氏會箋

×竹添進一郎

同 第五號 力學研究

理學博士 ×日下部四郎太

大正四年七月五日

恩賜賞 第九號 スピロヘータバリーダノ研究

醫學博士 ×野口英世

帝國學士院賞 第六號 雲 養 集

子爵 ×金允植

同 第七號 蠶ノ遺傳研究

農學博士 ×外山龜太郎

大正五年七月二日

恩賜賞 第十號 假名ニ關スル研究

×大矢 透

同 第十一號 周公ト其時代

文學博士 ×林 泰輔

同 第十二、十三號

黃疸出血性スピロヘーテ病ニ關スル共同研究

帝國學士院賞 第八、九、十、十一號

無線電信電話ニ使用スル電氣振動間隙ニ關スル研究

同 第十二號 鐵ニ關スル研究

大正六年七月一日

恩賜賞 第十四號 日本歌學史及和歌史ノ研究

同 第十五號

ラウエ映畫ノ實驗方法及其説明ニ關スル研究

帝國學士院賞 第十三號 漆ノ主成分ニ關スル研究

同 第十四號

スピネルノ原子配置並ニ歪ヲ受ケタル物體ノレントシエン線検査ニ關スル研究

醫學博士 × 稻田龍吉

工學博士 × 鳥井恒太郎

北村政次郎

本多光太郎

理學博士

文學博士 佐々木信綱

理學博士 寺田寅彦

理學博士 真島利行

理學博士 西川正治

大正七月五月十二日

恩賜賞 第十六號 宸記集及皇室御撰解題

同 第十七號 印度六派哲學

同 第十八號

植物界ニ於ケルフラヴオン體ノ研究

帝國學士院賞 第十五、十六號

日本住血吸蟲病ノ研究

桂公爵記念賞 第一號 日本經濟叢書

大正八年五月二十五日

恩賜賞 第十九號

相對性原理萬有引力論及量子論ノ研究

帝國學士院賞 第十七號 漢字ノ研究(古籀篇)

同 第十八號 癌ノ研究

醫學博士

石原純

理學博士

醫學博士

獸醫學博士

高田忠周

山極勝三郎

授賞事項及受賞者

和田英松

柴田桂太

醫學博士 桂田富士郎

醫學博士 藤浪鑑

法學博士 瀧本誠一

同

第二十號

滿俺青銅其他ノ銅合金及鑄鐵ノ鑄造ニ關スル研究

石川登喜治

大正九年五月三十日

恩賜賞 第二十號 法制史之研究

文學博士

三浦周行

同 第二十一號 脂油ノ研究

工學博士

辻本滿丸

帝國學士院賞 第二十一號 密教發達志

×大

大村西崖

同 第二十二號 音ノ異常傳播ノ研究

理學博士

藤原咲平

桂公爵記念賞 第二號 臺灣植物ノ研究

理學博士

早田文藏

大正十年五月二十二日

恩賜賞 第二十二號 日本佛教史之研究

文學博士

辻善之助

同 第二十三號 腦ノ解剖的研究

醫學博士

布施現之助

帝國學士院賞 第二十三號 クモヒデトノ研究

理學博士

松本彦七郎

同 第二十四號 日本刀ノ研究

工學博士

俵國一

桂公爵記念賞 第三號 河豚ノ毒素ノ研究

藥學博士

田原良純

大正十一年五月二十一日

恩賜賞 第二十四、二十五號 スタルク效果ノ研究

理學博士

高嶺俊夫

帝國學士院賞 第二十五號 生體染色法ニ就テノ研究

醫學博士

清野謙次

同 第二十六號 傳動軸ノ振レ計ノ研究

工學博士

末廣恭二

大正十二年五月二十七日

恩賜賞 第二十六號 近世日本國民史

德富猪一郎

同 第二十七號 本朝文粹註譯

藥學博士

柿村重松

同 第二十八號 漢藥成分ノ化學的研究

藥學博士

朝比奈泰彦

同 第二十九號 放射線ニ關スル研究

理學博士

木下季吉

大正十三年六月八日

恩賜賞 第三十號 長慶天皇御即位ノ研究

故

文學博士

八代國治

同 第三十一號

蛋白質及之ヲ構成スルアミノ酸ノ細菌ニ因ル分解トアミノ酸ノ合成ニ關スル研究

醫學博士

佐々木隆興

帝國學士院賞 第二十七號

貨幣ト價值並ニ經濟法則ノ論理的性質

法學博士 × 左右田 喜一郎

同 第二十八號 類脂肪體ノ研究

醫學博士 川 村 麟也

同 第二十九、三十號 副營養素ノ研究

農學博士 鈴木 梅太郎
× 高橋 克己
木崎 愛吉

桂公爵記念賞 第四號 大日本金石史

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第一號

和鏡聚英續和鏡聚英

廣瀬 治兵衛

同 第二號 放射線ノ研究ニ使用スル膨脹器ノ研究

清水 武雄

同 第三號

神經組織ノ炭酸發生並ニ炭酸ノ微量測定法ニ關スル研究

醫學博士 田代 四郎助

大正十四年五月三十一日

恩賜賞 第三十二號 三階教ノ研究

文學博士 矢吹 慶輝

同 第三十三號

構造物ノ振動殊ニ其ノ耐震性ノ研究

工學博士 物部 長穂

帝國學士院賞 第三十一號 白鼠ニ關スル研究

畑井 新喜司

大阪毎日新聞 寄附東宮御成婚記念賞 第四號

理學博士 曾 禰 武

氣體ノ磁氣計數ノ測定

理學博士 曾 禰 武

大正十五年五月十六日

恩賜賞 第三十四號 日本紋章學

沼田 賴輔

同 第三十五號

中國地方ノ古生層及中生層ノ層位學上ノ研究

理學博士 小澤 儀明

帝國學士院賞 第三十二號

メシア思想ヲ中心トシタルイスラヘル宗教文化史

文學博士 石橋 智信

同 第三十三號

宋末ノ提舉市舶西城人蒲壽庚ノ事蹟

文學博士 桑原 隲藏

同 第三十四號

元良式船舶動搖制止裝置ノ研究

工學博士 元良 信太郎

同 第三十五號 オキシダーゼノ組織學的研究

醫學博士 勝沼精藏

同 第三十六號 水銀避雷器ノ研究

工學博士 密田良太郎

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第五號

東京日日新聞

工學博士 齋藤平吉

同 第六、第七號

熱秤分析法ノ研究

醫學博士 島方順次郎

同 第八號

グイタミンB缺乏症ノ實驗的研究

醫學博士 緒方知三郎

昭和二年五月

恩賜賞 第三十六號

唐宋時代ニ於ケル金銀ノ研究(但シ其ノ貨幣的機能ヲ中心トシテ)

文學博士 加藤繁

同 第三十七號

金屬錯鹽ノ分光化學的研究

理學博士 柴田雄次

帝國學士院賞 第三十七號

神經ニ於ケル不減衰傳導ニ關スル研究

醫學博士 加藤元一

帝國學士院賞 第三十八號

本邦產石油ノ成分並ニ應用ニ關スル研究

工學博士 田中芳雄

桂公爵記念賞 第五號

朝鮮植物ノ研究

理學博士 中井猛之進

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第九號

東京日日新聞

特殊鋼ノ物理冶金學的研究

理學博士 村上武次郎

同 第十號

微毒ノ起源ニ就テ

醫學博士 土肥慶藏

昭和三年四月十四日

恩賜賞 第三十八號

法學博士 神戸正雄

同 第三十九號

聯立積分方程式及ビ之ニ關聯セル函數論的研究

理學博士 掛谷宗一

帝國學士院賞 第三十九號

日本歌謠史

文學博士 高野辰之

同 第四十號

高速度艦船ニ關スル研究

工學博士 平賀讓

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第十一號

東京日日新聞

本邦產植物ニ含マル、數種ノアルカロイドニ關スル研究

藥學博士 近藤平三郎

昭和四年四月二十六日

恩賜賞 第四十號

地球及地殻ノ剛性並ニ地震動ニ關スル研究

帝國學士院賞 第四十二號 極東颶風論

同 第四十二號 東洋音樂ノ研究

桂公爵記念賞 第六號 日本甲冑ノ新研究

大阪毎日新聞寄附東宮御成婚記念賞 第十二、十三、十四、十五號

鼠咬症ノ研究

同 第十六、十七號

鼠咬症ノ實驗的研究

志田順

理學博士

堀口由巳

理學博士

田邊尚雄

山上八郎

高二木謙三

醫學博士

大谷角眞

同

石原喜久太郎

醫學博士

太田原豐一

第二十七 補助研究事項 (自明治四十一年略之至昭和二年略之)

昭和三年度

會員

日本天主教ニ關スル研究

阿彌陀佛及淨土變相ニ關スル圖像誌的研究

日本庭苑發達史ノ研究特ニ九州ニ於ケル維新前庭苑遺構ノ調査

琉球諸島言語ノ研究

學習動作ノ實驗的型式の研究特ニ秩序化過程ノ型式ト其ノ分化

朝鮮ノ方言研究

マハーバストノ研究

平安朝時代ノ日記ノ研究

安土桃山時代ニ於ケル耶蘇會年報ノ翻譯及ビ研究

江戸時代中期以後ニ於ケル諸藩ノ學校及私塾ノ研究

近世支那文化ノ我國ニ及ボセル影響ノ研究

中世ニ於ケル瀬戸内海海賊ノ歴史的研究

帶狀スベクトルノ研究

姊崎正治

津田敬武

永見建一

宮良當壯

小野島右左雄

小倉進平

本村泰賢

平本通昭

松本愛重

村上直次郎

西田直二郎

中村久四郎

長沼賢海

高嶺俊夫

松方公爵米壽祝賀會寄附資金ノ中ヨリ支給スルモノ

- 五經索引ノ作成
- 農業勞働經濟ニ關スル研究
- 博多長崎ヲ中心トスル北九州經濟史
- 三禮並ニ支那國民性支那社會組織ニ就キテ (支那留學)
- 土壤生物ニ關スル研究
- 禾穀類ノ細胞學の並ニ遺傳學的研究
- 稻ノ病理學的研究
- 土壤ノ礦物學的及地質的研究
- 水陸稻ノ生物學的比較研究
- 稻ノ開花ニ對スル外界ノ影響ニ就テ

大阪毎日新聞東京日日新聞寄附資金ノ中ヨリ支給スルモノ

- 明治以後ニ於ケル普通教育ノ進歩ニ關スル數量的研究
- 日本ニ於ケル英學發達ノ歴史
- 地震地方ニ於ケル陸地水準ノ變更

會員

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 今山 | 豐田 | 阿部 | 野口 | 明峰 | 中尾 | 逸見 | 香川 | 澁谷 | 三坂 | 崎山 | 石濱 | 橋本 | 森本 |
| 村崎 | 田部 | 重 | 彌吉 | 正夫 | 清藏 | 武雄 | 冬夫 | 正健 | 和外 | 宗美 | 知行 | 傳左 | 角藏 |
| 明直 | 恒方 | 實 | 孝 | 實 | 孝 | 實 | 孝 | 實 | 孝 | 實 | 孝 | 實 | 孝 |

小池厚之助寄附資金ノ中ヨリ支給スルモノ

- 小惑星ノ運動ノ研究
- 昆蟲類ヲ材料トスル遺傳ノ研究
- 稻ノ結實ト環境トノ關係
- 痛腫ノ實驗的研究
- 實驗的白米病並ニ脚氣ノ腸内菌叢ノ研究
- 琉球人ノ體質人類學的研究
- 生物體組織ノ超顯微鏡的構造ノ研究
- 本邦氣候ニ對スル日本住宅ノ衛生學的總合研究
- 色素ノ排泄及吸收ニ就テ
- 自律神經系統ノ外科
- 副榮養素ニ關スル研究
- 卵子孵化ノ化學
- 麻酔ノ本態ニ關スル研究
- 血液成分調節作用ニ關スル研究

會員

- | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 阿部 | 加藤 | 富田 | 濱村 | 鈴木 | 伊藤 | 松尾 | 外尾 | 戶教 | 舟岡 | 金關 | 足立 | 松村 | 山極 |
| 勝馬 | 助藤 | 田雅 | 村保 | 木文 | 藤弘 | 尾巖 | 教室 | 田正 | 岡省 | 關丈 | 立太 | 村郎 | 極三 |
| 馬 | 手 | 元 | 一 | 次 | 治 | 助 | 弘 | 巖 | 同 | 三 | 五 | 郎 | 郎 |

人類及哺乳獸ノ口蓋發生

昭和四年度

學習ノ實驗的型式的研究、殊ニ秩序化過程ノ型式ト其ノ分化

マハーバスト研究

阿彌陀佛及淨土變相ニ關スル圖像誌的研究

朝鮮ノ方言研究

日本ニ於ケル英學發達ノ歴史

平安朝時代ノ日記ノ研究

中世ニ於ケル皇室御領

近江商人ノ研究

近畿ニ於ケル歷朝宮跡ノ研究

日本兒童ノ宗教意識ノ研究

內鮮兒童精神發育ニ關スル研究

アサガホノ諸器管ニ於ケル色素ノ生理遺傳學的研究

酸性白土ノ理論化學的研究

臺灣第三紀有孔蟲岩ノ層位學的研究

井上通夫

小野島右左雅

平木等村通昭賢

津田敬武

小倉進平

豐田實

松本愛重

菅村直勝

中野和太郎

濱野耕太郎

肥後一寬

關富

福原

萩林

小山本

會員

多相同期電動機、特ニ回轉變流機ノ亂調ニ就テ

大氣ノ波浪ニ就テ

纖維素エステルノ研究

故ナウマン氏ノフオツサ、マグナ中部(主ニ信越國境)ノ

構造地質學の展開

昆蟲類チ材料トスル遺傳ノ研究

ホーラログラフニ依ル微量有機化合物ノ電解還元壓ノ研究

アミノ酸ノ理論化學的乃至生化學的研究

鉛蓄電池ノ自己放電並ニ硫酸化ニ依ル容量ノ減退防止ト理論

日本産イリドスミン或ハオスミリザンノ製鍊

パラフィン單位結晶ノ分子配列

纖維素凝固態ノ構造

臺灣蕃族ノ體質ノ人類學的研究

太陽大氣ノ一般循環氣流ニ關スル統計的研究

牛乳ノ組成ニ關スル研究

含硫黄アミノ酸ニ關スル研究

酒精ノ蠶ニ及ボス影響

會員

熊澤尙文

鈴木清太郎

喜多源逸

小川琢二

本間不男

駒井卓

志方益三

高橋學而

富井六造

小室靜夫

田中芳雄

厚木勝基

宮内村勝

關口悅藏

平塚英吉

佐木林治

田中義鷹

松方公爵米壽祝賀記念獎學資金ニ依ルモノ

- 三禮並ニ支那國民性支那社會組織ニ就テ
- 近世支那文化ノ我國ニ及ホセル影響ノ研究
- 五經索引ノ作成
- 桑葚止玉蠅ノ研究
- 植物體ニ於ケルX線放射ニ由來スルネオプラヅマ予ノ謂フX線腫瘍ノ組織分化ニ關スル研究
- アラシカ屬ノ細胞學及實驗遺傳學的研究
- 家蠶ノ退化交尾器ニ關スル遺傳學的研究
- 農作物ノ根ニ施シタル數種ノ處置カ生育ニ及ホス影響ノ研究
- 本邦内種々ノ氣候ニ適應セル梨樹品種ノ果實ノ化學的及組織的研究
- 植物細胞ニヨル電解質並ニ非電解質ノ吸收ニ就テ
- 土壤窒素ノ消長ニ關スル研究
- 副營養素ニ關スル研究
- 稻ノ病理的研究
- 美濃地方並ニ關東山地古生層中ノ石炭層ノ研究

會員

- 崎山宗秀
- 中山久四郎
- 森本角藏
- 佐々木忠次郎
- 小室英夫
- 盛永俊太郎
- 梅谷與七郎
- 東條健一
- 立花千秋
- 坂村徹
- 大杉繁
- 鈴木文助
- 濱村保次
- 逸見武男
- 外研究員一同
- 德永康

植物ノ性染色體ニ關スル研究

篠遠喜人

大阪毎日新聞社長寄附東宮御成婚記念學術獎勵資金ニ依ルモノ

- 明治以後ニ於ケル普通教育ノ進歩ニ關スル數量的研究
- 琉球諸島言語ノ研究
- 或ル地震地方ニ於テ地震ニ先驅シテ出現スル地形變動
- 小惑星ノ運動

會員

- 阿部重孝
- 宮良當壯
- 山崎直方
- 今村明恒
- 平山清次

小池厚之助寄附獎學資金ノ中(醫學關係事項)ニ依ルモノ

- 單一筋纖維ノ收縮及ビ其ノクロナキシニ關スル研究
- 痛腫ノ實驗的研究
- 卵子孵化ノ化學
- 蝦蟇及熊ノ膽汁酸ノ化學的構造ノ研究
- 生物體組織ノ超顯微鏡的構造ノ研究
- 不妊症ニ關スル實驗的研究

會員

- 橋田邦彦
- 山極勝三郎
- 富田雅次
- 清田多菜
- 岡上代三
- 舟岡省生
- 岡村秀一
- 外岡研究員

色素ノ排出及ビ吸收

組織體外培養法ノ研究、特ニ同法ヲ應用シタル細菌學及ビ血清學的研究

北鮮ニ於ケル特有ナル骨疾患

漢藥蟾酥ノ藥理ニ關スル研究

生體酸化ニ關スル研究

シノメニウム及コツクルス屬植物含有ノアルカロイド研究

アミノ酸ノ合成研究

フランベシア、スピロヘータノ實驗的研究

脊椎動物ノ染色體ニ關スル研究

松尾 外大學院學生一同

木村 外教室員一同

小川 明 學務

岸 三三 二郎 人造

近藤 平三郎

慶松 勝左衛門

松本 信一

藁内 收

第二十八 有栖川宮記念獎學資金受領者トシテ 高松宮家へ補助推薦ノ研究事項

昭和二年六月、十二月推薦

社寺及民間ニ於ケル御歴代宸翰ノ調査及研究

日本人ノ性格ノ差異的並ヒニ發達的研究

昭和三年六月、十二月推薦

社寺及民間ニ於ケル御歴代宸翰ノ調査及研究

弘明集及廣弘明集ノ研究

日本藥園史ノ研究

日本人ノ性格ノ差異的並ヒニ發達的研究

印度ニ於ケル佛敎像ト一般神像トノ關係ニ就テ (密敎儀軌及ビブライナチ中心トシテノ研究)

有栖川宮記念獎學資金受領者トシテ高松宮家へ補助推薦ノ研究事項

相岩 黒辻 橋田 彌圓 勝善 小二 太郎 美助 太郎

黒辻 相岩 橋田 彌圓 勝善 小二 太郎 美助 太郎
上田 盤田 大梯 二小 善勝 彌之 助美
淡路 田盤 大梯 二小 善勝 彌之 助美
岡部 彌圓 三梯 大梯 二小 善勝 彌之 助美
逸見 梅 榮

第二十九 東照宮三百年祭記念會へ補助推薦ノ

研究事項 (自大正五年略之)

(至昭和二年略之)

昭和三年二月推薦

- 農村社會生活ノ統計的研究
- 源氏物語諸註集成
- 秩父古生層中ノ石炭層ノ研究
- 溫度測定法
- 膽石症及膽道疾患ニ關スル臨床並ニ實驗的研究

昭和四年二月推薦

- 江戸時代ニ於ケル庶民教育ニ就テノ研究
- 農村社會生活ノ統計的研究
- 考古學上ヨリ見タル東部西比利亞ト滿韓トノ關係
- 膽石症及ヒ膽道疾患ニ關スル臨床的並ニ實驗的研究
- 冶金爐内ノ化學的變化ニ就テ

那須村 藤田 池田 德永 宗宮 松尾 外松 石川 那須 鳥居 龍 教室 渡邊 和 須 龍 一 皓 謙 行 康 一 鑑 作 皓

- 電氣探鑛法ニ就テ
- 光ト膠質トノ關係ニ就テ
- 副腎ヨリアドレナリン分泌ニ就テノ研究
- 輕金屬ノ電解精製
- 稻ノ開花ニ對スル外界ノ影響ニ就テ
- 丹澤山地ニ發達スル御坂層中ノ變質岩ノ岩石學的研究

藤田 義象 堀場 信吉 佐武 安太郎 龜山 直人 野口 彌吉 杉健 一

第三十 藤田男爵獎學費受費者 (自大正六年略之)

(至昭和二年略之)

昭和三年六月

- 羅馬法學獎學費
- 採鑛冶金學及關係學科獎學費

東京帝國大學大學院學生 原田 慶吉
 東京帝國大學大學院學生 吉 城 肇 蔚
 同 理學部學生 神 山 昌 毅
 京都帝國大學大學院學生 久 島 亥 三 雄

第三十一 子爵夫人末松生子羅馬法獎勵獎學品

受品者 (自大正七年略之至昭和二年略之)

昭和三年六月

東京帝國大學法學部法律學科學生	井上幸一	岡本清
東北帝國大學法學部研究生	三由信二	安藤安正
高橋進太郎	俞鎮午	吉川巖
京城帝國大學法文學部學生	木原保次	黑板駿策
早稻田大學法學部法律學科學生	前川達造	
同大學法學部研究室		

第三十二 役員

大正十五年二月十七日	院長	理學博士	櫻井錠二
昭和二年七月一日	幹事	文學博士	姊崎正治
大正十五年三月二十日			
昭和二年七月一日			

大正十五年十二月二十二日	第一部々長	法學博士	富井政章
昭和二年七月一日	第二部々長	醫學博士	佐藤三吉
大正十三年七月一日			
昭和二年七月一日			

第三十三 會員及客員

一會員

(*印ハ東京學士會院會員トナレル年月日ニシテ明治三十九年六月十二日孰モ帝國學士院會員ト改マル)

* 明治十八年十二月十五日	第二部	醫學博士	三宅秀
* 同三十一年 四月十七日	第二部	理學博士	櫻井錠二
* 同三十二年 二月十二日	第二部	理學博士	小藤文次郎
* 同三十三年 六月三十日	第一部	文學博士	坪井九馬三
* 同三十五年 十二月十四日	第二部	醫學博士	小金井良精
同三十九年 九月十四日	第二部	工學博士	古市公威
同	第二部	理學博士	田中館愛橘
同	第二部	醫學博士	北里柴三郎

大正九年十二月二十七日

同十年 一月二十四日

同十一年 四月七日

同

同年 十二月二十六日

同十二年 三月十日

同年 五月三日

同年 十一月二十八日

同十四年 二月三日

同年 四月八日

同年 六月二十七日

同

同

同

第二部

第一部

第二部

第一部

第二部

第二部

第一部

第一部

第一部

第二部

第一部

第一部

第一部

醫學博士

文學博士

理學博士

法學博士

理學博士

工學博士

醫學博士

文學博士

法學博士

文學博士

藥學博士

文學博士

法學博士

農學博士

荒木寅三郎

松本亦太郎

佐々木忠次郎

福田德三

本多光太郎

高松豐吉

宮入慶之助

姊崎正治

田島錦治

市村瓊次郎

田原良純

三宅米吉

橫田秀雄

新渡戶稻造

大正十四年六月二十七日

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

第一部

第二部

第二部

第一部

第二部

第二部

第一部

第一部

第二部

第二部

第二部

第二部

第一部

第一部

工學博士

理學博士

文學博士

農學博士

理學博士

文學博士

法學博士

理學博士

理學博士

理學博士

理學博士

理學博士

法學博士

法學博士

德富猪一郎

伊東忠太郎

岸上鎌吉

狩野直喜

吉川祐輝

丘淺次郎

大塚保治

安達峰一郎

中村清二

山崎直方

今村明恒

木村榮

山田三良

加藤正治

會員及客員、委員及事業擔當會員、囑託員

一三二

昭和三年五月二十一日 第一部 文學博士 關根正直
 同四年 四月二十二日 第一部 佐伯定胤

二 客 員

大正十四年十二月十二日 サイ・チャールレス・エリオット
 昭和三年五月十二日 シルバン・レビ
 同四年 四月十二日 サイ・アルフレッド・イウイング

第三十四 委員及事業擔當會員、囑託員

一 帝國學士院紀事及別冊出版委員

大正十五年三月二十日 委員長 文學博士 姊崎正治
 昭和二年七月一日 編纂主任 醫學博士 三浦謹之助
 自明治四十四年六月十二日 同 醫學博士 長岡半太郎
 至昭和二年七月一日 同 法學博士 福田德三
 昭和二年七月一日 同 理學博士 平山信
 大正十四年九月十九日 委 員 理學博士
 昭和二年七月一日 委 員 理學博士

大正十四年九月十九日 委 員 法學博士 美濃部達吉
 昭和二年七月一日 同 理學博士 石川千代松

大正十五年四月十二日 同 文學博士 高楠順次郎
 昭和二年七月一日 同 文學博士 松本亦太郎

大正十四年九月十九日 同 農學博士 吉川祐輝
 昭和二年七月一日 同 理學博士 山崎直方

同 同 理學博士 今村明恒
 同 同 工學博士 倭國一

同 同 農學博士 鈴木梅太郎
 同 同 理學博士 高木貞治

二 學術研究獎勵金運用委員

昭和三年二月十四日 委員長 文學博士 姊崎正治
 同 委員 法學博士 富井政章
 同 同 醫學博士 佐藤三吉

會員及客員、委員及事業擔當會員、囑託員

一三三

昭和三年二月十四日 同 法學博士 山崎覺次郎
 同 同 法學博士 加藤正治
 同 同 工學博士 倭國一
 同 同 法學博士 矢作榮藏
 同 同 文部省會計課長 河原春作
 同四年七月九日 同

三 和算史調査

大正六年十月十二日 擔當會員 理學博士 藤澤利喜太郎
 同 十五年十二月十八日 囑託 岡本則錄
 昭和四年五月二十二日 長澤正治

四 皇室制度ノ歴史的研究

大正九年三月十六日 擔當會員(主任) 文學博士 三上參次
 同 十五年二月主任推薦 同 法學博士 美濃部達吉
 同 九年三月十六日 同 文學博士 服部宇之吉
 同 十一年二月二十五日 同 文學博士 和田英松
 同 九年五月二十五日 囑託員 文學博士 和田英松

大正九年五月二十五日 囑託員 文學博士 山本信哉
 同年 九月六日 同 田邊勝哉
 同年 十月五日 同 淺野長武
 同 十一年 二月十七日 同 諸橋轍次
 同 十二年 四月二十六日 同 龍葛盛
 同 十三年 十一月一日 同 黑井大圓
 同 十四年 一月三十一日 同 藤原猶雪
 同 同 高橋隆三
 同 同 武田政一
 昭和二年十月二十日 同
 昭和四年四月十二日 擔當會員 文學博士 坪井九馬三
 同 三月一日 囑託員 板澤武雄

五 我邦ト歐洲諸國トノ交通史料ノ蒐集及研究

六 北畠親房及ビソノ子孫ノ事蹟研究

事業擔當會員及囑託員

事務職員

昭和二年二月十二日
同 二年四月二十三日

擔當會員
囑託員

文學博士

三

上

參

次

一三六

第三十五 事務職員

明治四十年六月十日
昭和二年七月二十五日
同 四年 二月五日
明治四十二年十二月八日
昭和四年四月十六日
同 二年 七月三十一日
大正十五年六月十二日
昭和三年四月十六日
同 二年 三月十七日

書記
文部屬兼
東京商大事務官
學術研究會議
書記兼文部屬
同
文部屬
同
學術研究會議
書記兼文部屬
囑託
同
同

佐原茂一
濱利雄
菅原廣治
金坂周次
古野清人
山鹿規夫
市橋靜子
菊地之恒
津田虎雄

第三十六 帝國學士院前役員

(×印ハ死亡者)

院長

自明治三十九年八月
至同四十二年 六月
自明治四十二年七月一日
至大正 六年八月二十日
自大正 六年十月二十日
至同十四年 十月十二日
自大正十四年十一月十七日
至同十四年 十二月二十三日

幹事

自明治三十九年八月
至同四十二年 六月
自明治四十二年七月
至大正 二年七月
自大正二年七月十一日
至同十五年二月十七日

文學博士 男爵 × 加藤弘之
文學博士 男爵 × 菊池大麓
理學博士 男爵 × 穂積陳重
法學博士 男爵 × 岡野敬次郎
文學博士 × 重野安釋
法學博士 × 宮崎道三郎
理學博士 櫻井錠二

第一部部长

帝國學士院前會員

一二七

自明治三十九年七月十二日
至大正六年十月二十日
自大正六年十一月二十四日
至同十五年十一月十八日

法學博士 男爵 × 穂積 陳重
文學博士 井上 哲次郎

第二部々長

自明治三十九年八月
至同四十二年六月
自明治四十二年七月一日
至大正十年六月三十日
自大正十年七月一日
至同十三年六月三十日

理學博士 男爵 × 菊池 大麓
工學博士 男爵 古市 公威
理學博士 藤澤 利喜太郎

第三十七 帝國學士院前會員及客員

(×印ハ死亡者)

一 前會員

自明治三十九年六月十二日
至同四十年八月十四日
自明治三十九年六月十二日
至同年八月三十日
自明治三十九年六月十二日
至同年十月三日

子爵 × 福羽 美靜
文學博士 × 黒川 眞頼
文學博士 × 根本 通明

自明治三十九年六月十二日
至同年十二月廿二日
自明治三十九年六月十四日
至同四十二年二月十八日
自明治三十九年十月二十四日
至同四十一年三月十一日
自明治三十九年六月十二日
至同四十二年九月十七日
自明治三十九年九月十四日
至同四十三年八月二十五日
自明治三十九年六月十二日
至同四十三年十二月六日
自明治三十九年六月十二日
至同四十四年九月十五日
自明治四十一年二月二十六日
至同四十四年九月六日
自明治三十九年九月十四日
至大正元年十月五日
自明治三十九年九月十四日
至大正元年十二月十三日
自明治三十九年九月十四日
至大正二年二月十五日
自明治三十九年六月十二日
至大正二年四月十四日

理學博士 山川 健次郎
醫學博士 × 橋本 綱常
文學博士 × 佐藤 誠實
理學博士 × 箕作 佳吉
法學博士 × 梅謙 次郎
文學博士 × 重野 安釋
男爵 × 大島 圭介
工學博士 × 下瀬 雅允
法學博士 × 穂積 八束
文學博士 × 元良 勇次郎
文學博士 × 本居 豐穎
文學博士 × 木村 正辭

自明治三十九年九月十四日
至大正二年五月二十六日
自明治三十九年九月十四日
至大正五年二月二日
自明治三十九年六月十二日
至大正五年六月二十二日
自明治三十九年六月十二日
至大正六年八月二十日
自明治三十九年九月十四日
至大正六年九月十日
自明治三十九年六月十二日
至大正六年十二月四日
自明治三十九年九月十四日
至大正六年二月二十四日
自明治四十一年八月四日
至大正七年四月七日
自明治三十九年九月十四日
至大正七年十二月二十一日
自明治三十九年六月十二日
至大正八年五月十二日
自明治三十九年六月十二日
至大正八年八月一日

醫學博士	×緒	方	正	規
文學博士	×三	島		毅
文學博士	×中	島	力	造
醫學博士	×隈	川	宗	雄
醫學博士	×青	山	胤	通
法學博士	×杉		享	二
文學博士	×星	野		恒
理學博士	×菊	池	大	麓
男爵	×田	中	芳	男
文學博士	×加	藤	弘	之
醫學博士	×三	浦	守	治
理學博士	×坪	井	正	五
				郁

自明治四十年六月二十八日
至大正八年十一月十二日
自明治三十九年九月十四日
至大正八年十一月二十一日
自明治四十二年二月四日
至大正九年九月十三日
自明治四十年四月九日
至大正九年十月六日
自明治三十九年九月十四日
至大正十年三月十四日
自明治四十一年五月二十六日
至大正十年十二月十五日
自明治四十二年七月二十二日
至大正十年七月二十二日
自明治四十二年四月二十二日
至大正十二年二月二十五日
自明治三十九年六月十二日
至大正十二年七月二十日
自明治三十九年六月十二日
至大正十二年八月六日
自明治三十九年九月十四日
至大正十二年八月十五日
自明治三十九年九月十四日
至大正十二年十一月八日

法學博士	×松	崎	藏	之	助
理學博士	×久	原	躬	弦	
法學博士	×高	橋	作	衛	
文學博士	×末	松	謙	澄	
理學博士	×飯	島		魁	
法學博士	×岡	松	參	大	郎
工學博士	×高	峰	讓	吉	
藥學博士	×井	口	在	屋	
工學博士	×細	川	潤	次	郎
文學博士	×寺	尾		壽	
理學博士	×田	尻	稻	次	郎
法學博士	×大	森	房	吉	
理學博士	×大				

自大正五年四月二十一日
至同 十三年二月二日
自明治三十九年九月十四日
至大正十四年十二月二十三日
自明治三十九年六月十二日
至大正十五年四月八日
自明治三十九年六月十二日
至大正十五年十一月十八日
自明治三十九年六月十二日
至昭和二年一月十日
自大正四年三月二十四日
至昭和二年二月六日
自明治三十九年九月十四日
至昭和二年十一月九日
自明治四十四年三月二十八日
至昭和三年二月十七日
自明治三十九年六月十二日
至昭和三年四月十八日
自明治四十一年五月二十六日
至昭和三年五月四日
自大正十二年十一月十四日
至昭和三年五月二十一日
自明治三十九年九月十四日
至昭和四年二月十日

文學博士 ×萩野由之
法學博士 子爵 ×岡野敬次郎
法學博士 男爵 ×穂積陳重
文學博士 井上哲次郎
醫學博士 ×大澤謙二
文學博士 ×芳賀矢一
文學博士 ×南條文雄
文學博士 ×大槻文彦
法學博士 ×宮崎道三郎
理學博士 ×松村任三
醫學博士 ×野口英世
理學博士 ×長井義
藥學博士 ×長井義

自大正七年三月二十五日
至昭和四年五月十四日

醫學博士 ×伊藤隼三

二 前 客 員

自明治三十九年六月十二日
至同 四十三年六月二十七日

×ギユスターヴ・ボアンナード・ド・フォンタラビー

第三十八

元東京學士會院役員

(×印ハ死亡)

會 長

自明治十二年一月
至同年 六月
自明治十二年六月
至同 十五年六月
自明治十三年十二月
至同 十九年六月
自明治十九年六月
至同 十九年七月
自明治三十一年一月
至同 三十九年八月
自明治二十九年十二月
至同 三十年十二月

×福澤諭吉
×西澤周
×加藤弘之
×細川潤次郎
文學博士 男爵 ×加藤弘之
文學博士 男爵 ×細川潤次郎

副 會 長

自明治十四年九月
至同 十五年七月

×西 周

元東京學士會院役員

自明治十五年六月
至同十八年六月

幹事

自明治十八年六月
至同十九年六月

自明治十八年六月
至同十九年六月

自明治十九年六月
至同二十年九月

自明治十九年六月
至同二十年九月

自明治二十年九月
至同二十六年十二月

自明治二十年九月
至同二十六年十二月

自明治二十六年十二月
至同三十一年十二月

自明治三十一年十二月
至同三十三年四月

自明治三十三年四月
至同三十八年十二月

自明治三十八年十二月
至同三十八年十二月

×神田孝平

×加藤弘之

×神田孝平

×箕作秋坪

×大鳥圭介

×細川潤次郎

×重野安釋

×杉享二

×外山正一

×菊池大麓

×田中芳男

文學博士

文學博士

文學博士

文學博士

文學博士

文學博士

第三十九 元東京學士會院會員及客員

一會員

(△ハ文部大輔ヨリ會員報帖ヲ交付セラレン者、○印ハ勅選ニ係ル者其他ハ會長ヨリ報帖ヲ交付セラレン者、×印ハ死亡ノ者)

△男 爵 ×西 周

△文學博士 男爵 ×加 藤 弘 之

△男 爵 ×神 田 孝 平

△男 爵 ×津 田 真 道

△文學博士 ×中 村 正 直

△ ×福 澤 諭 吉

△ ×箕 作 秋 坪

×内 田 玄 端 觀

自明治十二年一月十五日
至同三十年二月一日
自明治十二年一月十五日
至同三十九年六月十二日
自明治十二年一月十五日
至同三十一年七月五日
自明治十二年一月十五日
至同三十二年十月五日
自明治十二年一月十五日
至同三十五年七月一日
自明治十二年一月十五日
至同三十四年六月七日
自明治十二年一月十五日
至同十四年二月十五日
自明治十二年一月十五日
至同十九年十二月三日
自明治十二年一月二十八日
至同二十二年七月十九日
自明治十二年三月一日
至同十五年三月二十九日

自明治十二年三月十五日	至同三十年三月六日	×栗本鋤雲
自明治十二年二月十五日	至同三十二年八月二十六日	×市川兼恭
自明治十二年二月十五日	至同三十四年一月二十四日	理學博士 男爵 ×伊藤圭介
自明治十二年三月一日	至同三十五年八月十八日	文學博士 ×西村茂樹
自明治十二年四月二十八日	至同三十九年六月十二日	法學博士 ×杉享二
自明治十五年五月十五日	至同三十九年六月十二日	男爵 ×細川潤次郎
自明治十二年五月十五日	至同三十九年六月十二日	×小幡篤次郎
自明治十二年五月十四日	至同三十九年六月十二日	文學博士 ×重野安釋
自明治十二年五月十五日	至同三十九年六月十二日	文學博士 ×川田剛
自明治十二年五月二十八日	至同三十九年六月十二日	子爵 ×福羽美靜
自明治十二年六月十五日	至同三十九年六月十二日	×阪谷素
自明治十二年六月十五日	至同三十九年六月十二日	子爵 ×森有禮

自明治十三年三月十五日	至同三十年十二月一日	法學博士 男爵 ×箕作麟祥
自明治十四年五月十五日	至同十五年十月五日	×鷺津宣光
自明治十四年六月十一日	至同三十九年六月十二日	男爵 ×大鳥圭介
自明治十四年十一月七日	至同三十九年六月十二日	文學博士 ×黑川真賴
自明治十五年六月六日	至同二十八年十月十一日	文學博士 ×小中村清矩
自明治十五年十一月七日	至同二十三年一月十日	×村上英俊
自明治十八年九月十六日	至同二十六年六月七日	○伯爵 ×寺島宗則
自明治十八年九月十六日	至同三十九年五月二十三日	○子爵 ×谷干城
自明治十八年十一月十五日	至同二十五年七月二十七日	×原坦山
自明治十八年十一月十五日	至同三十九年六月十二日	文學博士 ×三島毅
自明治十八年十二月十五日	至同三十九年六月十二日	×田中芳男
自明治十八年十二月十五日	至同三十九年六月十二日	醫學博士 三宅秀

自明治二十年二月十三日
至同 三十三年三月八日
自明治二十二年四月十四日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十二年十月十三日
至同 二十八年二月十八日
自明治二十三年六月八日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十五年一月二十七日
至同 三十一年八月二十七日
自明治二十八年五月一日
至同 三十九年六月二十日
自明治二十九年一月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治二十九年五月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十年五月九日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十一年二月十三日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十一年四月十七日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十一年十二月十一日
至同 三十九年六月十二日

文學博士	×外	山	正	一
文學博士	×菊	池	大	麓
文學博士	×岡	松	甕	谷
文學博士	×木	村	正	辭
文學博士	×島	田	重	禮
文學博士	井	上	哲	次
醫學博士	×大	澤	謙	二
醫學博士	×穗	積	陳	重
醫學博士	×箕	作	佳	吉
醫學博士	×緒	方	正	規
醫學博士	櫻	井	錠	二
法學博士	×宮	崎	道	三
法學博士	×宮	崎	道	三

自明治三十二年二月十二日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十三年一月十四日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十三年六月三十日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十四年五月六日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十五年十二月十四日
至同 三十九年六月十二日
自明治三十六年十二月十三日
至同 三十九年六月十二日

二 客 員

理學博士	小	藤	文	次	郎
文學博士	×根	本	通	明	
文學博士	坪	井	九	馬	三
文學博士	山	川	健	二	郎
醫學博士	小	金	井	良	精
醫學博士	×寺	尾	壽		

×ギユスターヴ・ポアンナード・ド・フォンタラビー

第四十 昭和四年四月二十六日第十九回授賞式 に於ける櫻井院長の演説

閣下並に諸君。

本日本院第十九回授賞式を舉行するに當り、各位の御臨場を辱ふしたることは、本院の光榮とする所でありまして、茲に一同に代り深厚なる謝意を表します。

本日の受賞者は恩賜賞理學博士志田順、帝國學士院賞理學博士堀口由己、田邊尙雄、桂公爵記念賞山上八郎、東宮御成婚記念賞醫學博士二木謙三、同高木逸磨、同谷口腆二、同大角眞八、同石原喜久太郎、同太田原豊一の諸君であります。今授賞の目的物となつたる其の研究又は著書に就て、詳細の説明は御手許にある「授賞審査要旨」と題せる印刷物に之を譲ること致しまして、茲に其の要點のみを述べますならば、志田理學博士の地球及地殻の剛性並に地震動に關する研究は、一面には、地球潮汐の觀測に伴ふ海洋潮汐の影響其の他の困難を除去して地球自體の潮汐を算出し之に依り地球及地殻の剛性を推定し、他の一面には、地震初動の方向を精査して地震動の機巧

を闡明したるものであり、

堀口理學博士の極東颱風論は、幾多の颱風に就き氣象各要素の分布を詳細に調査して颱風の構造を明にし、颱風の原動力は水蒸氣の凝結に由る放熱に歸すべきものたることを考査したるものであり、

田邊尙雄君の東洋音樂の研究は、極東諸國の音樂に就き、之を音律・樂器・舞謠の三方面より精査考査したるものであり、

山上八郎君の日本甲胃の新研究は、多數の資料に就て研究を爲し、之に依り甲胃の起原・特色・沿革・名義・部分等を組織的に詳述したるものであり、

二木、高木、谷口、大角各醫學博士の鼠咬症の研究、及石原、太田原、故田村醫學博士の鼠咬症の實驗的研究は、其の表題に於て少しく異なる所あるも、内容に於ては殆ど何等異なることなく、共に鼠咬症の病原體たる一種のスピロヘータの發見に係るものにして、而も兩者の研究は全く獨立に行はれ、而して同時に發表せられたるものがあります。

右は何れも、本院授賞規則第二條の明文にある成績卓絶なるものでありまして、此

の如き有益なる研究又は著書に對して授賞を行ひ、此の如き優秀なる成績を擧げられたる勤勉篤學の士の功績を表彰することは、本院規程第一條の目的に最もよく副ひ、之に依り學術の發達と教化の進運とに貢獻する所頗る大なるものあるべきは、信じて疑はざる所であります。而して此の授賞は、獨り受賞者諸君の名譽であるのみならず、實に我學界の一大慶事として茲に滿腔の祝意を表します。

さて、本年は本院創立滿五十年に相當致しまするので、本日の此の好機會に於て、本院の沿革の概要を述べて各位の御清聽を煩はすことに致したいと考へます。

本院は元、東京學士會院と稱し、明治十二年一月十五日の創設に係る所のものであります。之より先、文部省御雇デグッド・マレー博士の建議に依り、時の文部卿西郷從道氏は、歐米諸國の例に倣ひ我邦にアカデミー設立の必要あるを認め、明治十一年十二月九日、之に關し西周先生外六人の先生方に諮詢する所がありまして、其の諮詢書は左の如くであります。

教育ノ針路ヲ指點シ學術技藝ヲ提擧センコトヲ欲セハ宜シク學士會院ヲ設ケ學德素アルノ士ヲ會シテ互ニ其要務ヲ討議スルノ所ト

ナスヘシ此事一タヒ舉ラハ國土ノ文運ヲ振興シ人生ノ福祉ヲ増益スルニ庶幾カラシカ請フ高見ヲ開吐シテ悋ムナカレ

明治十一年十二月九日

文部卿 西郷從道 印

西	周君
加藤弘	之君
神田孝	平君
津田真	道君
中村正	直君
福澤諭	吉君
箕作秋	坪君

貴名いろはニ從フ

加藤弘之先生の御話に依りますと、右の諮詢は單に廻狀を以て行はれたるものではなく、東京學士會院創設の實務に當られたる、時の文部大輔田中不二麿氏が、右の諸

先生を私宅に招待し、諮詢書と共に東京學士會院規則大意なるものを提示して意見を聞かれたところ、誰も異議のあろう筈なく、全會一致賛意を表されたと言ふことです。御手許に差上げたる諮詢書寫にある花押は、即ち賛成の意を表する爲に、其の席で書かれたるものと思はれます。

諮詢書と共に示されたる規則の大意は次の通であります。

東京學士會院規則大意

本院ハ文部省ノ起立ニ係リ教育ノ事ヲ議シ學術技藝ヲ討論スル所タリ其ノ規則左ノ如シ

- 第一條 本院ノ會員ハ四十名ヲ以テ限トス
- 第二條 會員ハ本院之ヲ撰舉シ文部卿之ヲ認可ス
- 第三條 會員中ヨリ會長一名ヲ撰舉ス
- 第四條 會長及會員ハ年金三百圓ヲ交付ス
- 第五條 本院ハ書記五名以下ヲ備使スルコトヲ得
- 第六條 會議ハ毎月一次期日ヲ豫定シ之ヲ開クヘシ但シ會長ノ意

見若クハ文部卿ノ要メニ因リ臨時會ヲ開クコトヲ得

- 第七條 本院ノ議案ハ會員ノ起草ニ成ル但シ時宜ニヨリ文部卿ヨリ發按スルコトアルヘシ

- 第八條 文部卿若クハ其代理人ハ本院ノ會議ニ參スルコトヲ得ルト雖モ可否ノ數ニ入ルコトヲ得ス

- 第九條 本院議決ノ事項ハ印刷シ公頒スルコトヲ得

選舉法案

文部卿先ツ會員七名ヲ撰舉シ此七名ヨリ他ノ七名ヲ撰舉シ又此十四名ハ他ノ若干名ヲ撰舉スヘシ

越へて、翌明治十二年一月十五日、政府は東京學士會院創設の旨を公にし、同時に田中文部大輔（西郷氏辭任に付文部卿缺員）は、會員に選舉せる旨の報狀を西周先生外六先生に交付し、同日午後三時文部省内修文館を會場として東京學士會院第一回會議を開き、福澤諭吉先生を會長に選舉し、又會則を商議制定したのであります。本院は實に今を去る五十年三ヶ月以前の明治十二年一月十五日を以て創立せられたものであ

ります。

東京學士會院の最初の會員として、文部卿の推選したる七大家の當年の年齢を、數年で調べて見ますと、第一の年長者たる箕作秋坪先生が五十二、次は西周、津田真道の兩先生で、何れも五十一、夫れから神田孝平先生が五十、中村正直先生が四十八、福澤諭吉先生が四十六、最年少者は加藤弘之先生で四十四といふ順序でありまして、諸先生が何れも元氣旺盛なる時代であつたのであります。

翌二月の例會に於て、會員は當分二十一名に止め置くべきことを協定したのでありまして、其の年の六月に至り會員數が二十一名に達して居ります。而して新に會員に成られたる十四名の學者は、杉田玄端、市川兼恭、伊藤圭介、内田五觀、西村茂樹、栗本鋤雲、杉享二、細川潤次郎、小幡篤次郎、重野安釋、川田剛、福羽美靜、阪谷素及森有禮の諸先生でありまして、全會員二十一名中自然科学方面の會員は伊藤圭介先生外一兩名に過ぎず、其の他は全部純文學若くは人文科學方面の諸先生であつたことは、當時我邦學界の状態を反映する所のものであります。

明治十八年に、四十名の會員中十五名は勅旨に依り會員となるに成つたのであり

ますが、實際勅旨に依て會員と成られたるは、寺島宗則、谷干城の兩先生に過ぎないのであります。又其の頃より近世科學の大家として新に會員に選舉せられたるは三宅秀先生御一人でありまして、先生は明治十八年十二月に會員に成られ、現會員中の最古考であり、又其の當時の會員中唯一人の生存者であらせられますので、先生の益々御壯健ならんことを祈り、長く我學界の大先輩として、我々を指導せられんことを希ふ所であります。

越へて、明治三十九年六月には大改革がありまして、東京學士會院は帝國學士院と改稱して、第一第二の二個の部を設くることとなり、會員の定員は六十名に増加し、而も本院に於て推選の上其の全部が勅旨を以て會員を命せらるることとなり、經費も亦幾分増加したのであります。而して帝國學士院第一回の役員選舉に於て院長に加藤弘之、幹事に重野安釋、第一部々長に穂積陳重、第二部々長に菊池大麓の諸先生が當選就任せられたる次第であります。此の改革に就ては、數年以前より内部に於て屢々協議を遂げ、又再度文部大臣に建議する所もあつたのであります。容易に之が實行を見るに至らずして徒に歲月を重ねたる次第であります。然るに、幸にしてヴィエナ學

院士より當時同地駐劄の我牧野公使に對し、東京學士會院が萬國學士院聯合會に加入しては如何との勸誘があり、之に關し牧野公使の多大なる御盡力ありたる事が動機となつて、我々の建議の趣旨が容れられて、遂に所期の改革も行はれ、同時に本院が外國に於ける學術上の團體と共同して研究を爲し、又は其の會員となることを得るに至り、其の年の十二月に本院は正式に萬國學士院聯合會に加入したる次第であります。私は牧野伯爵閣下の往年の御盡力に對し、此の機會に於て深厚なる謝意を表すことの光榮を有する者であります。

右の改革に依て定員六十人に増加せられたる會員は、其の專攻學科に従ひ之を切半して、三十人は文學及社會的諸學科に關する第一部に、三十人は理學及其の應用諸學科に關する第二部に分屬せしむることと相成つて、昔日の如く、會員の專攻學科が一方に偏することなきに至つたる次第であります。只本邦の學術は年と共に益發達し、本院の事業も愈多方面的と相成り、各部三十人の定員にては尙甚しき不足を感じるに至り、遂に大正十四年五月會員の定員は百人に増加せられ各部五十人と成つたる次第でありまして、前後二回の定員増加に依り、各學科を通じ多數の權威ある新進學者を

會員として迎ふことを得たるは、本院の最も欣幸とする所であります。

同年六月貴族院令の改正に依り、本院會員四人即ち各部二人の貴族院議員を選出することと相成つたるは、本院沿革中の一大重要事項でありまして、國家繁榮の基礎であり文化増進の原動力である學問の權威が漸次政府及一般社會の認むる所となりたる結果、我學界の中樞機關たる本院の代表者が、貴族院令の明文に依り、議政の府に列することに相成つたるものと考ふる次第であります。而も貴族院帝國學士院會員議員の第一回選舉に於て井上、小野塚、田中館、藤澤四博士の如き最適任者が當選せられたることは國家の爲慶賀に堪へざる所であります。

以上は主として、本院の構成分子たる會員に關する事項に就き、創立より今日に至る迄の沿革の概要であります。次に本院の事業に就て其の發達の概要を述べようと思ひます。

東京學士會院創立當年即ち明治十二年の五月より、毎月「東京學士會院雜誌」なるものを刊行し、例會に於ける會員の講演を之に掲載して各方面に配布し、十九年には例會の講演を公開し、三十四年には東京學士會院雜誌を廢刊して、例會の講演は之を

東洋學藝雜誌に掲載することなれる等の變遷はありましたが、例會の講演は概して通俗的のものであつて、會員の獨創的研究に係る學術報告の如きは極めて稀であつたのであります。而して明治三十九年には前述の如く本院は萬國學士院聯合會に加入し、翌四十年には本院代表として重野安釋、菊池大麓兩先生がヴィエナに於て開かれたる同聯合會第三回總會に出席せられ、其の後は、同聯合會毎に本院代表者が出席することに相成つたる譯であります。本院の事業としては未だ殆ど何等見るべきものはなかつたのであります。

然るに、一方、明治四十二年の頃より、本院の目的たる學術の發達を圖る爲め、本院に授賞の制を設け、以て大に學術研究を獎勵すべしとの議が起り、其の方法に關して審議中、明治四十三年七月五日附を以て左の御沙汰書を拜受致しました。

帝國學士院

其院ノ目的ヲ遂行スル爲メ普ク學術ノ研究ヲ獎勵スル旨趣ヲ以テ
授賞ノ制ヲ定メントスルノ計畫有之候趣被

聞食特ニ賞典資トシテ本年ヨリ十箇年間年々金貳千圓下賜候事

皇室の學問御獎勵に對し奉りては、常に感佩措く能はざる所であります。右の御沙汰を拜し聖旨の有難きに會員一同感涙に咽びたる所であります。而して本院に於きましては、同年十月授賞規則を制定し、翌四十四年七月第一回授賞式を舉行して、理學博士木村榮君の「地軸變動ノ研究特ニ乙項ノ發見」に對し恩賜賞を授け、其の後毎年授賞式を行ひ成績卓絶なる研究又は論文著書に對し賞を授くること成つたる次第であります。

越へて、大正九年一月に至り更に左の御沙汰書を拜受致しました。

帝國學士院

其院去ル明治四十三年授賞ノ制設定ニ際シ賞典資トシテ十ヶ年間
年々金貳千圓下賜ノ處成績顯著ニ付大正九年度以降引續十ヶ年間
年々下賜候事

又之と同時に別に左の御沙汰書を拜受致しました。

帝國學士院

其院學術研究ノ資トシテ金壹萬圓下賜候事

實に重々の有難き御沙汰を拜し、聖恩の厚きに對し奉り會員一同感激の至に耐へず責任の愈々大なるを憾する次第であります。

此の學術研究の資としての別途御下賜金は爾後毎年之を拜受致して居りますのみならず、大正七年以來毎年、本院會員一同賜餐の恩命を拜して居りまして、返すくも有難きことであります。

學問御獎勵の聖旨に感激して、獎學資金の寄附を本院に申出る民間篤志の士、明治四十四年以來相次で現はれ、三井男爵、三菱合資會社、高峰博士、住友男爵、古河男爵、藤田男爵、三井合名會社、山下龜三郎、故桂公爵記念事業會、末松子爵夫人、松方公爵米壽祝賀會、財團法人原田積善會、高峰保全株式會社、三共株式會社、大阪毎日新聞社、メンデンホール、小池厚之助、岡野男爵、小津清左衛門、中澤つる、及古籟篇刊行會の諸氏より夫々多額の金員を本院に寄附せられ、爲に本院の事業愈々舉がり賞としては恩賜賞以外に、帝國學士院賞、桂公爵記念賞、東宮御成婚記念賞を設けて、成績卓絶なる研究を表彰するの途を擴張し、別に篤學有爲の學者の研究を達成せしむる爲め研究費を補助するの途を拓き、年々多數の有益なる研究に對し補助金を與ふ

ること、成り、斯くして益々學術の發達に貢獻することを得るに至りたるは、本院の眞に欣幸とする所でありまして、皇室の厚き御保護を拜謝すると共に、茲に寄附者各位及各團體に對し深厚なる謝意を表します。

授賞及研究費の補助は、學術研究獎勵の爲め、主として外部に向つて行ふ所の本院の事業であります。今内部に於ける事業の重なるものを舉ぐれば和算史の調査、伊能忠敬測地事蹟の調査、燃黎室記述の調査、羅馬法に關する書籍の翻譯出版、帝室制度の歴史的研究、日蘭交通史料の調査等でありまして、和算史の調査は、明治三十九年に着手して今日に及んだるものであります。大體に於て一段落を告げ、帝室制度の歴史的研究は、別途御下賜金の一部を特に其の經費に充つることとして、大正九年以來着手せるものであります。

又本院の刊行物としては東京學士會院雜誌廢刊の後は、明治四十五年より數年間に亘り英文帝國學士院紀事五冊を不定期に刊行し、別に部の出版物として第一部論文集（邦文）二冊、第二部メモアル（英文）一冊を刊行したるのみでありまして、經費の不足の其他の事情に依り何れも中絶するに至り、而も日新月歩の我學界に於ける研究の業

績を、斷へず世界に紹介すべき使命を有せる帝國學士院英文紀事が、大正七年に至つて全く其の跡を絶ちたるは殊に遺憾とせし所であります。然るに漸く大正十四年に至り、少額ながらも出版費として政府支出金の増額があり、依て直に歐文紀事復活刊行の計畫を立て、新規計畫の下に毎年一卷十冊を發行すること、相成つて今日に及んだる譯であります。而して此の歐文紀事は、會員の研究又は會員の紹介に依る他の研究に係る業績の大意にして、本院例會に於て報告せられたる十數件の論文を毎號之に登載して、廣く海外諸國の學士院、大學、研究所等に寄贈し、以て我邦に於ける學術を世界に紹介し之を世界の共有物たらしめ、之に依り、我邦が幾分なりと他の文明諸國と共に世の文運に貢獻せんことを期する所のものでありまして、歐文紀事の定期刊行は、本院の事業中最も大切なるもの、一つであります。只經費不足の爲め僅に目的の一小部分を達し得たるに過ぎざること甚だ遺憾とする所でありまして、是非共、此の事業の擴張充實を期さねばならぬこと、考ふる次第であります。兎に角、今日の本院歐文紀事は、五十年前の東京學士會院雜誌と全然其の趣を異にするものでありまして、此の相違は最近半世紀間に於ける我邦學術の進歩發達を反映すると共に、本院

の沿革を最もよく物語る所のものであります。

第四十一 本院會館工事概要

一 規模

敷地坪數 一、〇〇〇坪

本館建坪 二〇二坪 (附屬門衛所 一一坪)

地下室及屋上階共に五層にして各階坪數左の如し

地下室 七三坪 一階及二階 各二〇二坪

三階 一三四坪 屋上階 五四坪二五

合計 六六五坪二五

本館延長、東西と南北と各一八間

本館高さ、中央部 五六尺、兩翼及背部 四九尺

一 構造

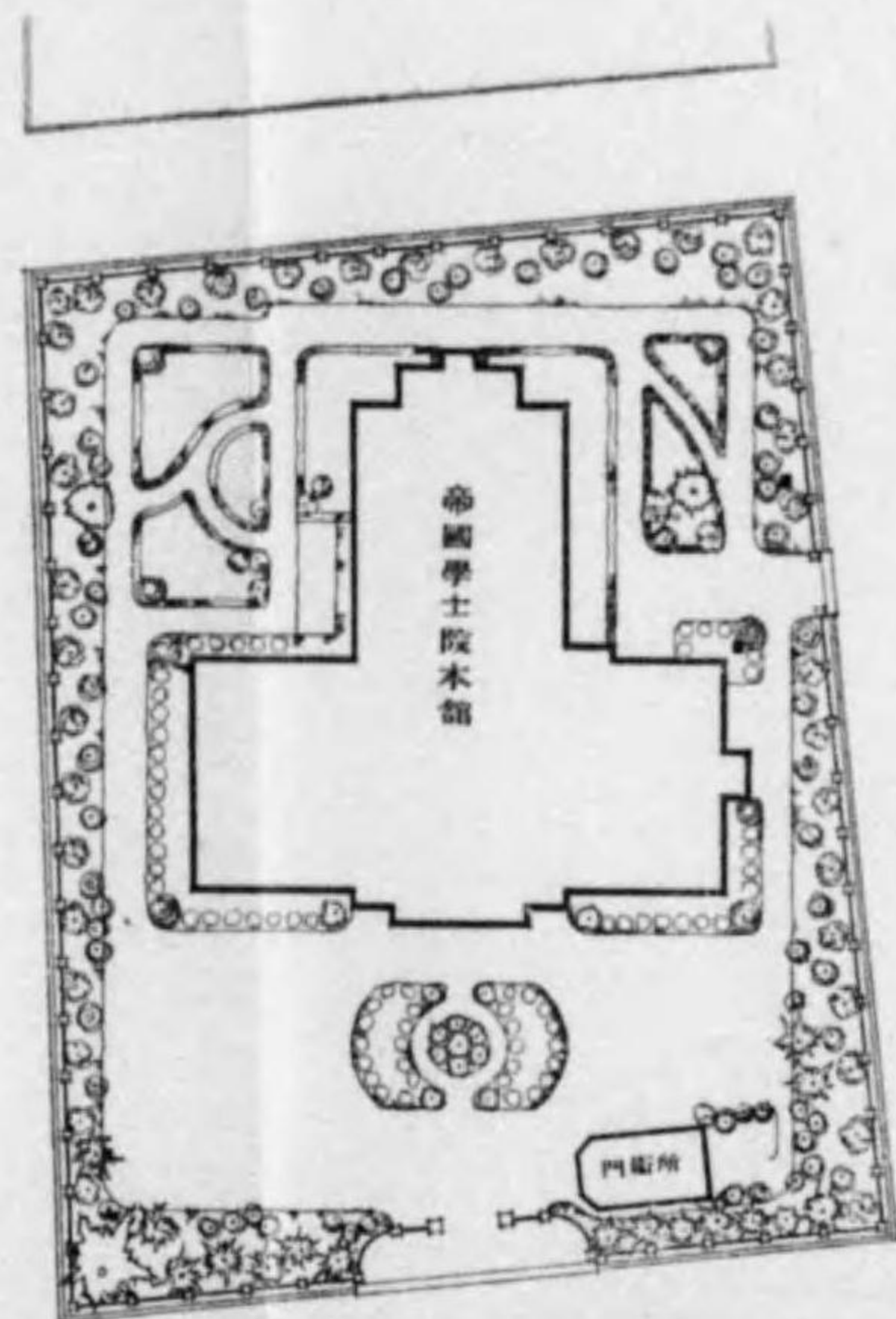
本館構造は鐵筋コンクリート造にして、屋根はコンクリートスラブ上に防水層を施し砂利敷とし、外壁は腰廻り萬成産花崗石、上部日の出石貼付、及モルタル塗仕上とし、附屬家は鐵筋コンクリート、ブロック造、外部モルタル塗仕上とす

一 工事設計及施工

營繕管財局

本工事は當初文部省建築課に於て設計起工し、大正十四年四月營繕管財局へ移管せられ、多少の設計變更をなせり。

一 工 事 大正十三年十二月起工、大正十五年九月竣工

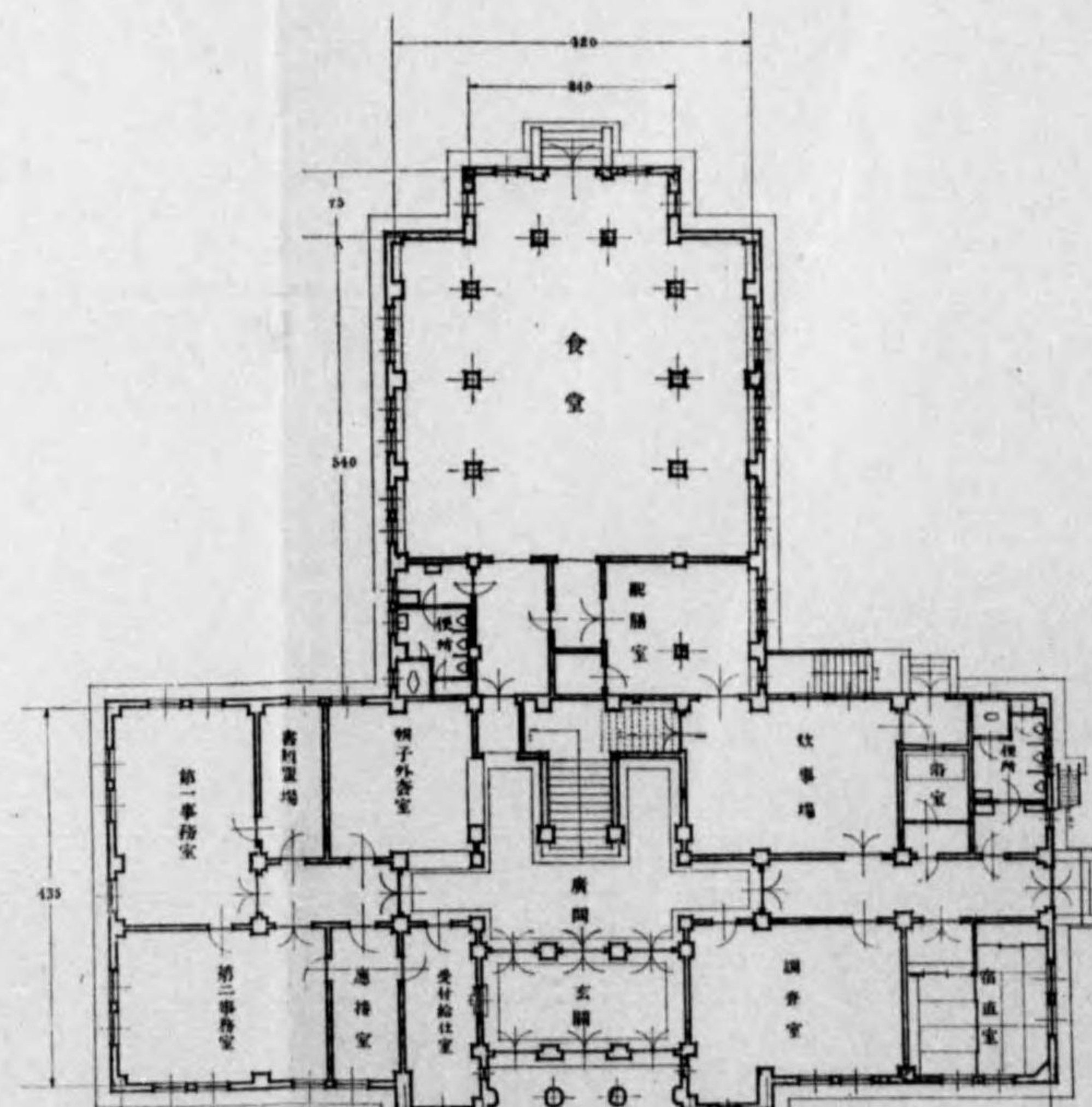
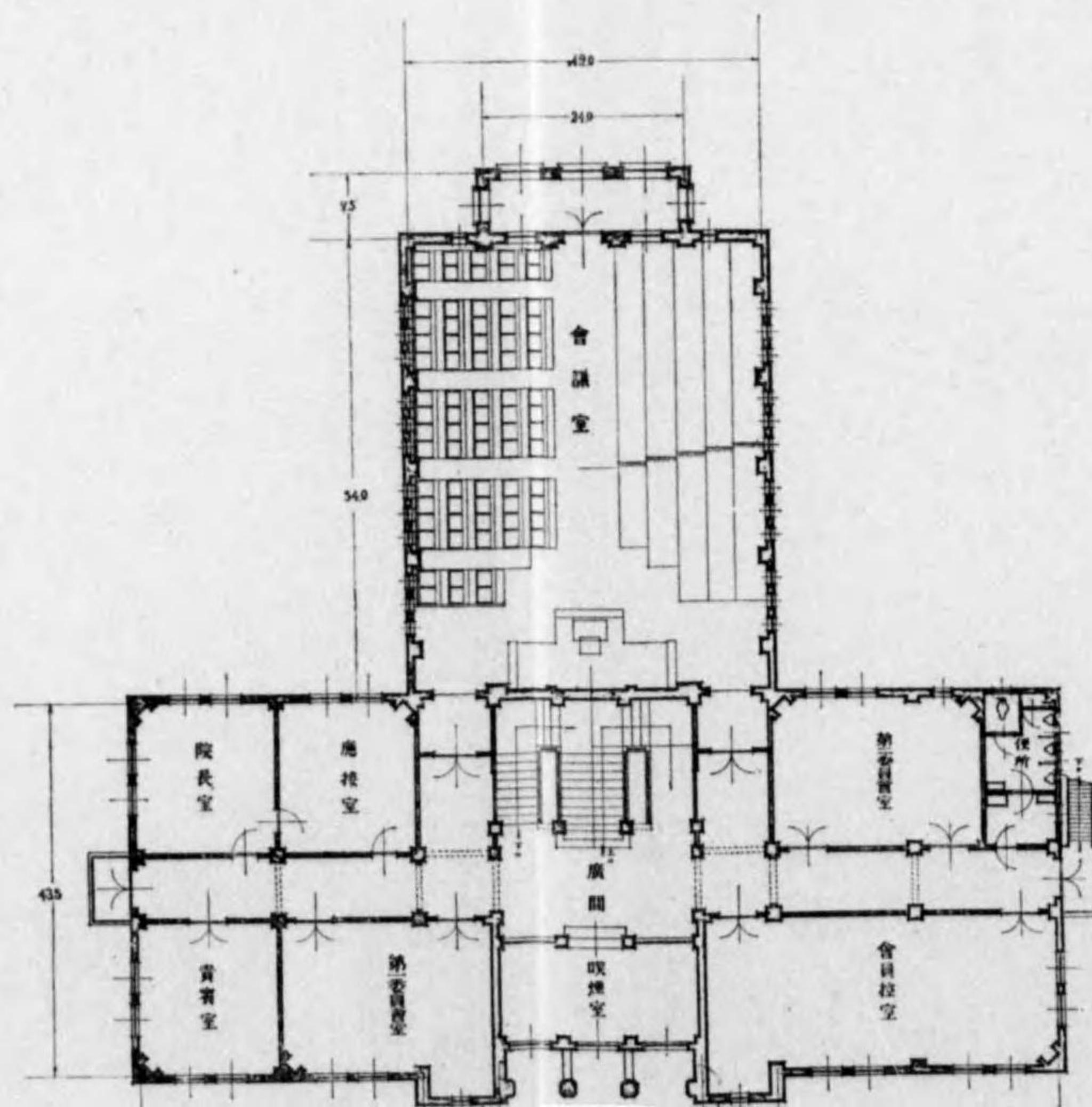
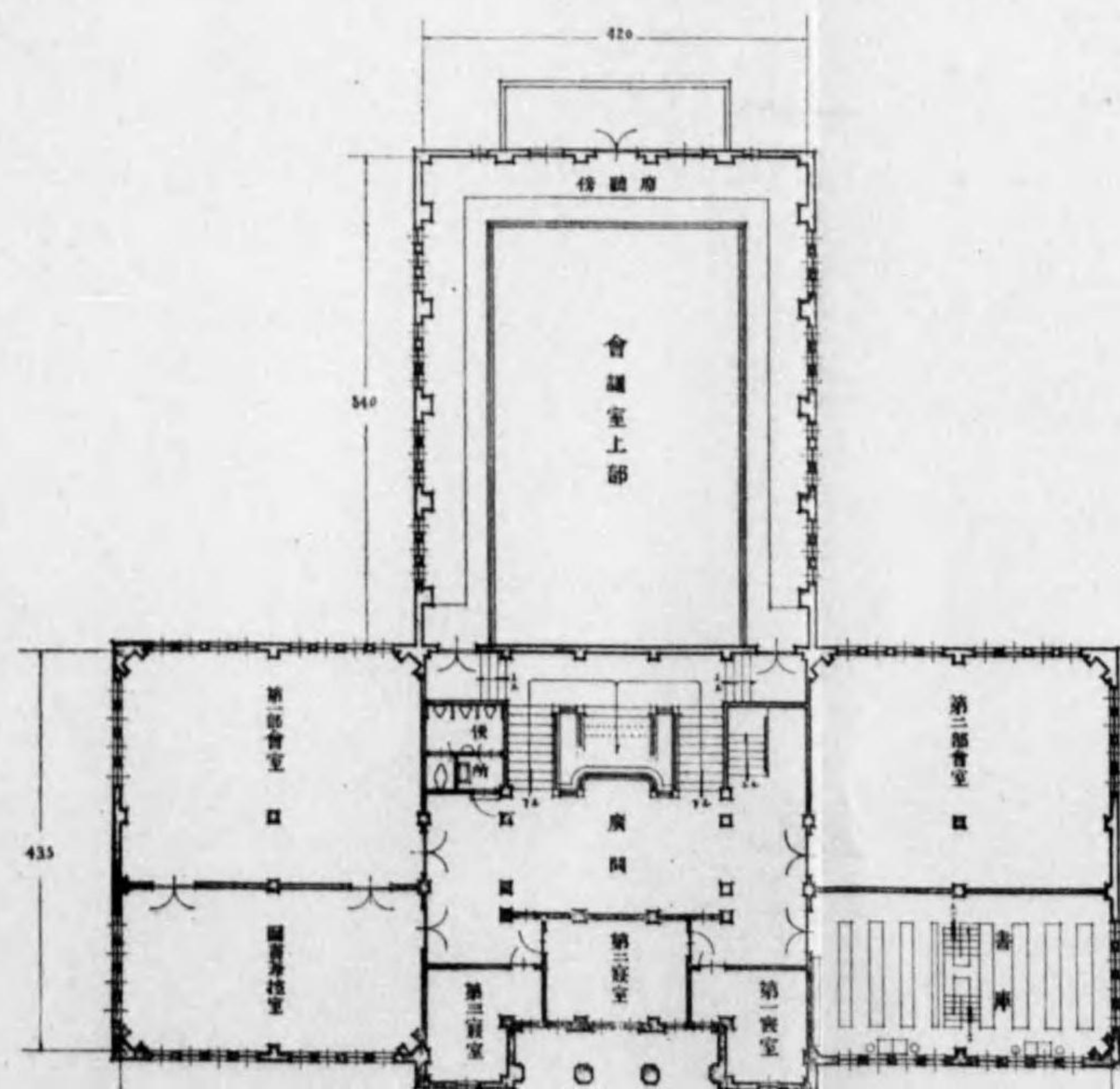
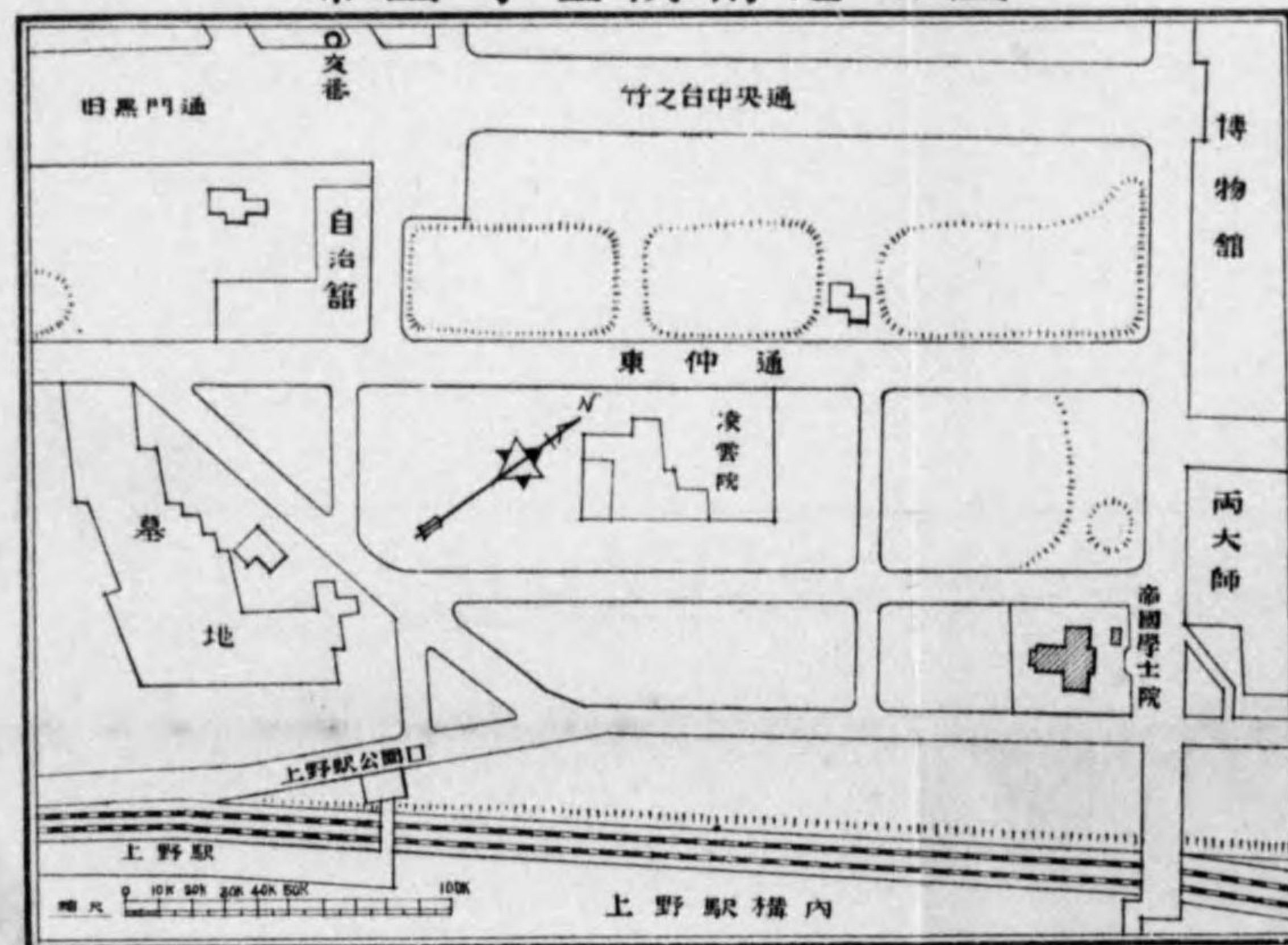


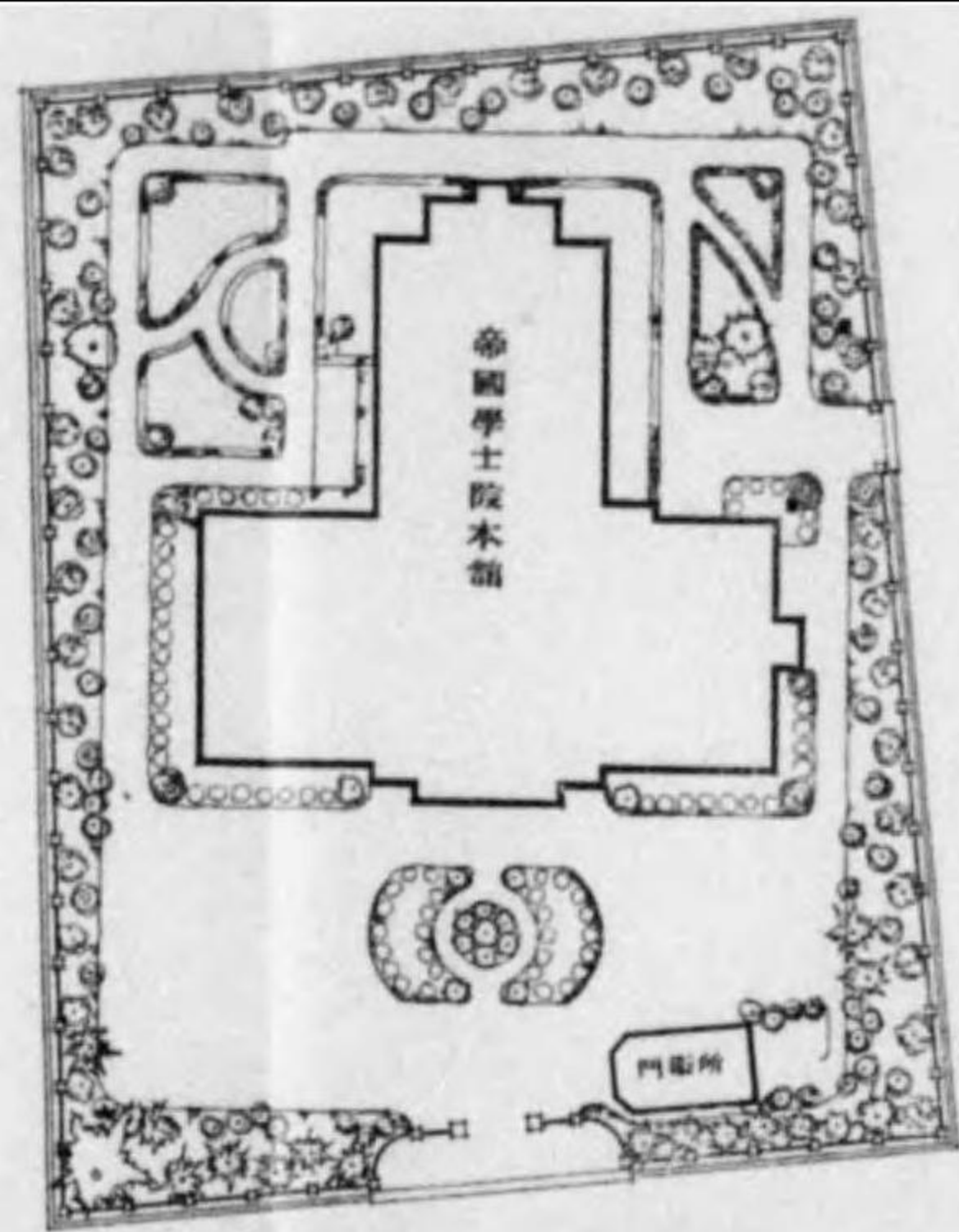
帝國學士院配置圖



口大端

帝國學士院附近略圖

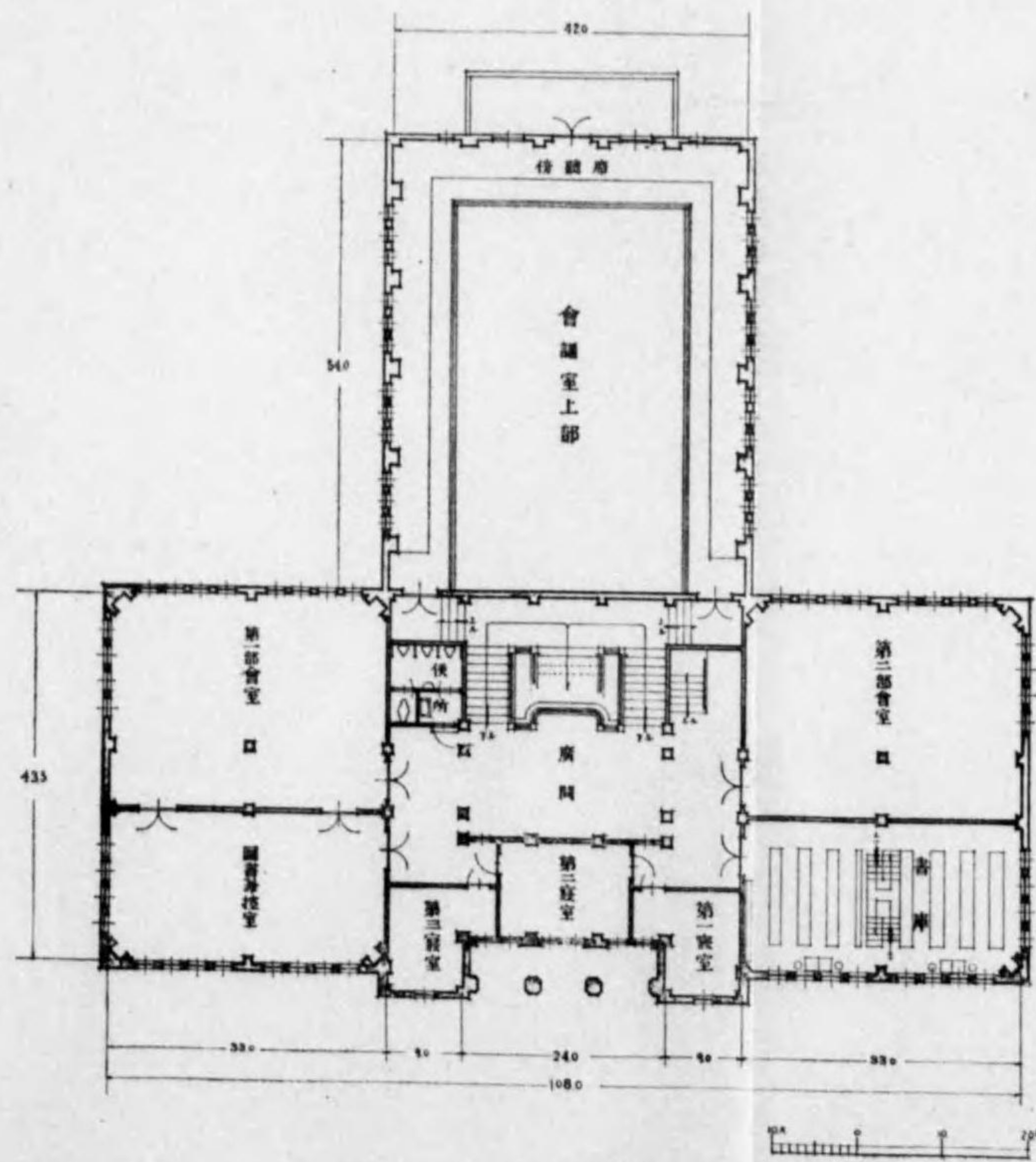
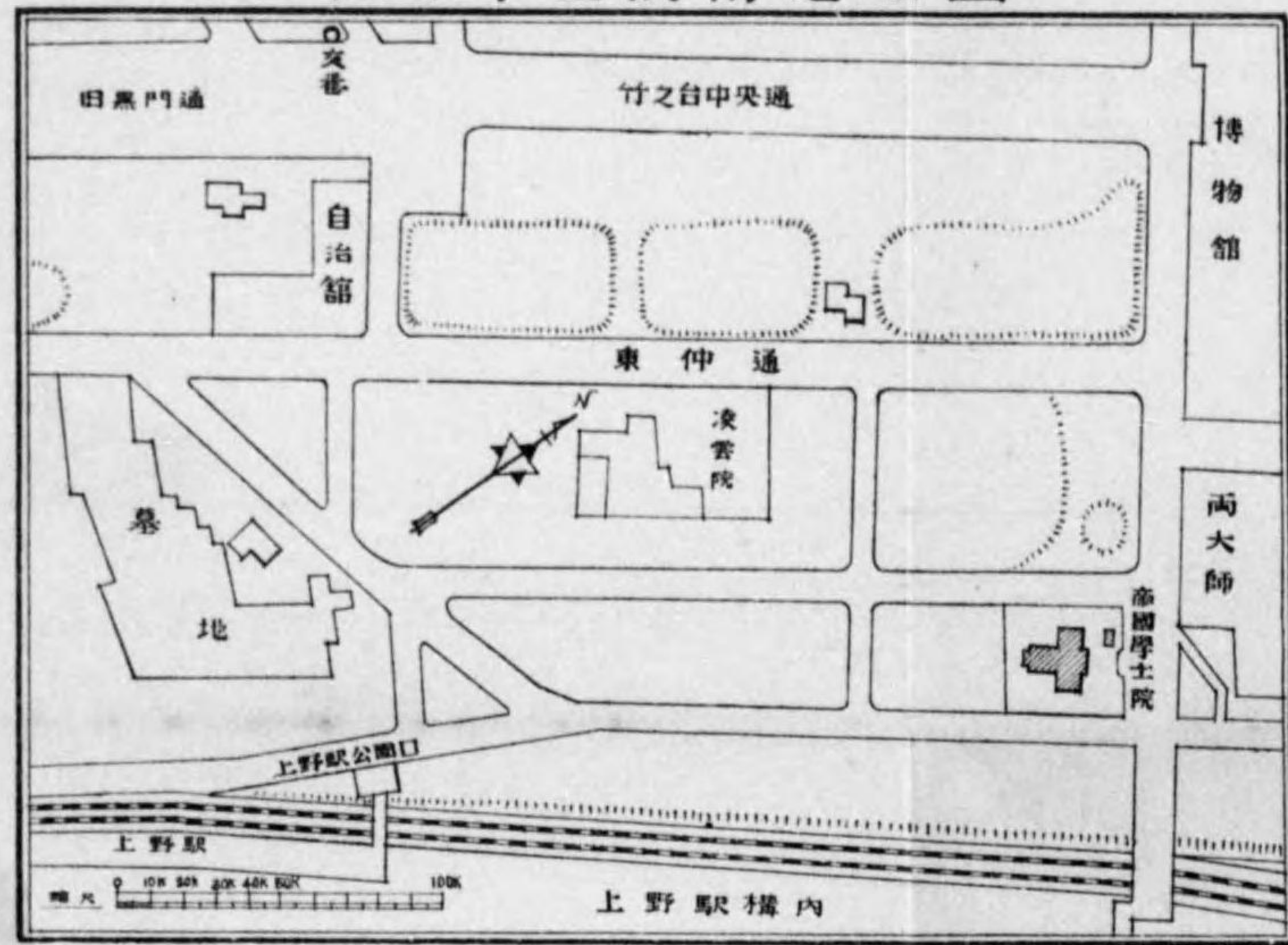




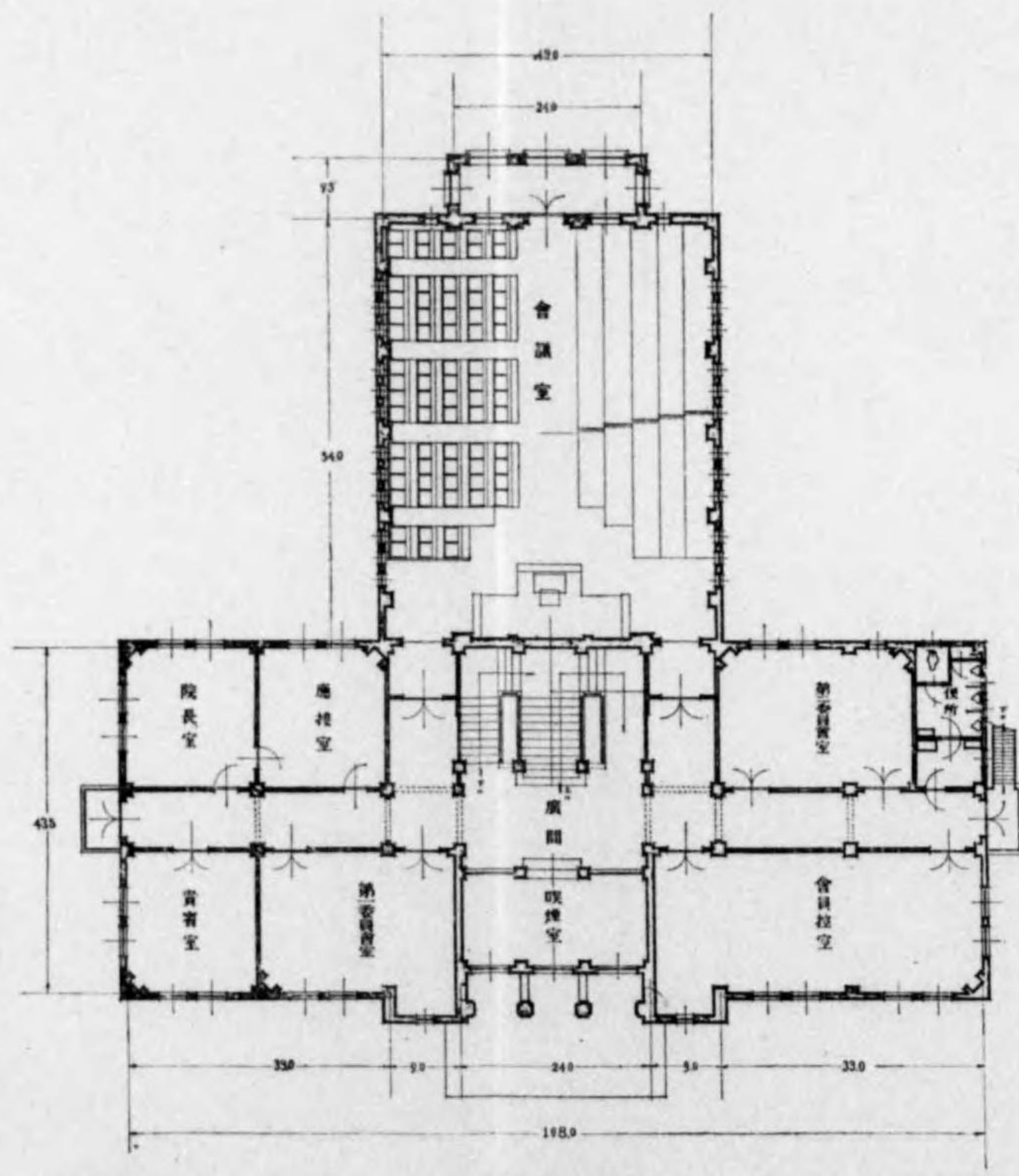
帝國學士院配置圖



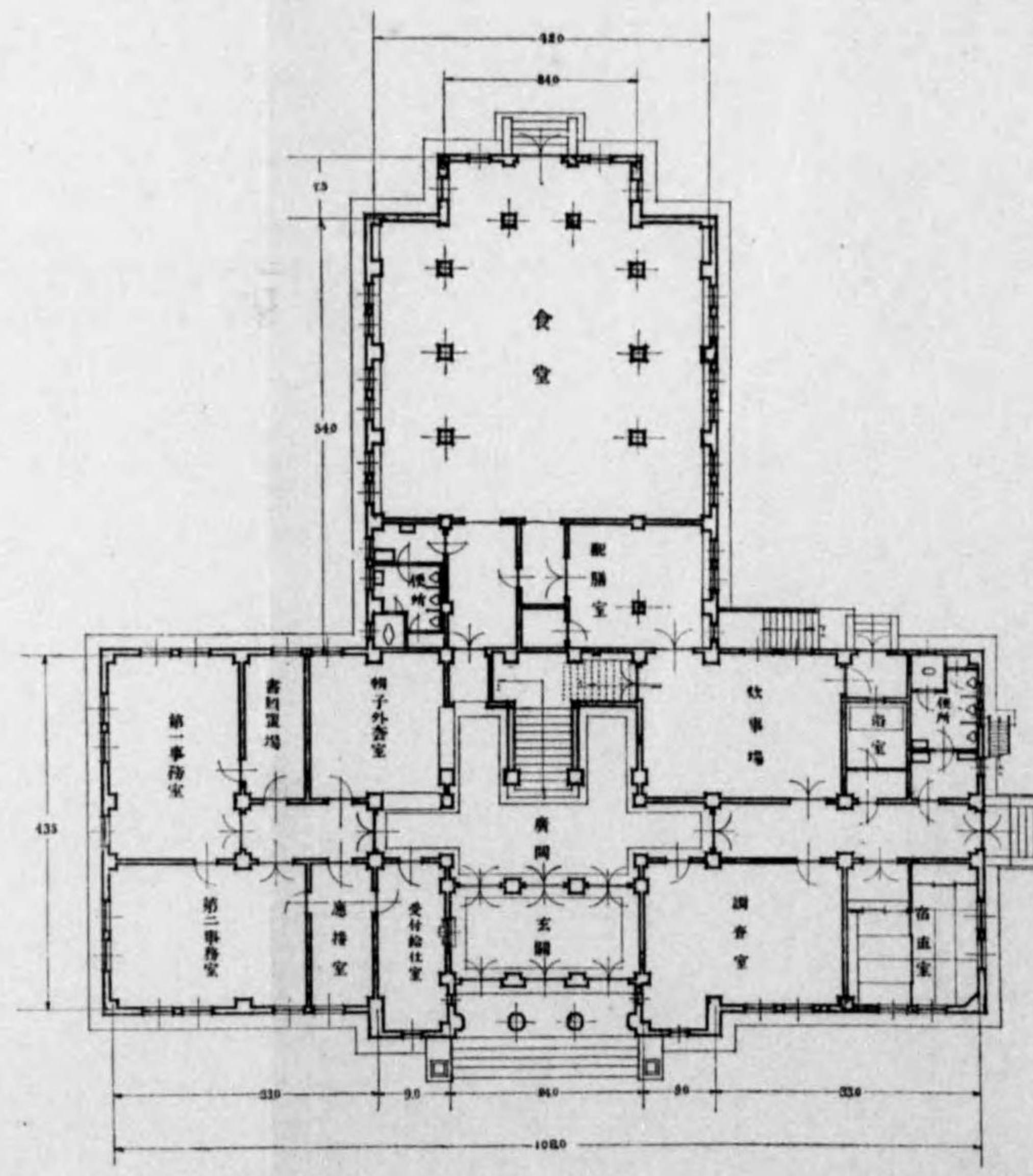
帝國學士院附近略圖



三階平面圖



二階平面圖



一階平面圖

昭和四年八月

東京市下谷區上野恩賜公園地

帝國學士院

電話
下谷 (83) 四四〇番(專用)
四三番

終

